

西日本豪雨災害
大学ボランティアセンター助成活動報告会
朝日新聞厚生文化事業団



朝日の社会福祉 2019

令和元年度事業報告
2019年4月1日-2020年3月31日

はじめに

試練の時を迎えています。2020年に入ってから新型コロナウイルスの急激な感染拡大で、日本はもとより世界で健康被害が広がり、人の動きや企業活動がとまり、福祉や教育の現場も混乱させる未曾有の事態に陥りました。この困難をどう乗り越えていくのか……。危機にあって、当たり前前が当たり前でなくなり、ダメージを受ける人々、福祉を必要とする人が増えるであろうなかであって、何ができるのか、私たちは真摯に考えていく所存です。

さて、朝日新聞厚生文化事業団は2019年度、引き続き「お互いに支え合い、だれもが安心して暮らせる社会」の実現のために活動してきました。残念ながら19年度も災害は多く、秋の台風15号、19号による水害が大きな被害を及ぼすなどしました。これに対し、全国各地の大学ボランティアセンターによる被災地での復興活動への支援を強め、若い人たちがボランティアとして入りやすい環境を整える助成を行いました。さらにいくつかのセンターと「協定」を結びました。各センターとは万一の災害時に手を取り合い、迅速な支援につなげていきたいと考えています。また東日本大震災など過去の災害についても引き続き復興支援を実施いたしました。

このほかにも児童養護施設や里親家庭の高校生に奨学金を贈る「進学応援金」、経済的に厳しい環境にある家庭を支援する事業、精神障害者の地域での生活を考える講演会、認知症関連、パラリンピック関連の事業など、様々な活動を行いました。

事業団は新年度も、地域福祉の向上につながる「地域づくり」、福祉を支える人材を育む「人づくり」、「支援の輪の拡大」という、「中期計画2020」が掲げる三つの軸にそって、精いっぱい取り組んでいく所存です。

コロナウイルスの一刻も早い収束を祈っております。

これからも事業団の活動への温かいご支援、ご協力をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

2020年春

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

2019年度（平成31年度）朝日の社会福祉

目次

はじめに	1
2019年度主催事業一覧	3
【社会福祉事業】	5
被災地支援	6
子どもの福祉	14
障害のある人の福祉	20
高齢者の福祉	28
【公益事業】	35
福祉啓発・公衆衛生	36
チャリティー事業	39
〈地域公益活動〉ボッチャ体験&ちょこっと福祉相談会	43
新型コロナウイルス感染拡大に伴う事業中止、延期	43
主な後援・協賛・協力事業一覧	44
チャリティー美術展に出展いただいた皆さま	49
ご寄付をいただいた皆さま	52
中期計画2020～新しい福祉のカタチをめざして～	60
朝日福祉ガイド DVD・本のご案内	64
朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ	66
2019年度 事業活動計算書より抜粋	69
理事・監事・評議員名簿	70
ご寄付の方法	71
お問い合わせ・職員名簿	72

2019年度主催事業一覧

4月	11日	ゆうゆうビジット(福田進一)	福岡市	特別養護老人ホーム薔薇の樹苑
	13日	認知症カフェ運営講座	北海道滝川市	市農村環境改善センター
	20日	シンポジウム ひとり親をめぐる現状と施策	東京都千代田区	有楽町朝日スクエア
5月	4日	みんなでパラリンピック(ブラインドサッカー)	神奈川県藤沢市	児童養護施設聖園子供の家
	17日	あそびのいえ	宮城県東松島市	野蒜市民センター
	18日	国際シンポジウム 認知症の人にやさしい街をめざして	大阪市	コンプレクションセンター
	18日	みんなでパラリンピック(ブラインドサッカー)	東京都立川市	児童養護施設至誠学園
	25日	西日本豪雨災害大学ボランティアセンター公募助成活動報告会	大阪市	朝日新聞大阪本社
	27日	ゆうゆうビジット(高砂部屋)	東京都江戸川区	特別養護老人ホーム江戸川さくらの杜
	31日	遺贈・遺言セミナー	東京都中央区	朝日新聞東京本社
6月	8日	遺贈・遺言セミナー	大阪市	朝日新聞大阪本社
	17日	ゆうゆうビジット(川島成道)	大阪市	特別養護老人ホーム寿里苑ラピス
	24日	ゆうゆうビジット(バルリントリオ)	奈良市	特別養護老人ホーム和楽園
	29日	シニア世代の週末特別教室	大阪市	コンプレクションセンター
	30日	精神疾患をもつ親に育てられた人のためのつどい	東京都中央区	朝日新聞東京本社読者ホール
7月	6日	聖明・朝日盲大学生奨学金貸与式	東京都新宿区	ホテルグランドヒル市ヶ谷
	7日	朝日高齢者福祉セミナー2019	名古屋市中区	朝日ホール
	19日	あそびのいえ	宮城県東松島市	野蒜市民センター
	19日	第66回朝日夏季保育大学(～20日)	長野県諏訪市	諏訪市文化センター
	22日	ゆうゆうビジット(高砂部屋)	三重県桑名市	特別養護老人ホームソフトハウス
	28日	精神疾患をもつ親に育てられた方のための家族による家族学習会	東京都中央区	朝日新聞東京本社
8月	1日	認知症フレンドリーキッズ授業	鹿児島市	喜入公民館
	5日	ゆうゆうビジット(川島成道)	鳥取市	特別養護老人ホームふしの白寿苑
	6日	認知症フレンドリーキッズ授業	大阪市	市立淀商業高校
	18日	精神疾患をもつ親に育てられた方のための家族による家族学習会	東京都中央区	朝日新聞東京本社
	24日	第36回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト	東京都千代田区	有楽町朝日ホール
	24日	自閉症カンファレンスNIPPON(～25日)	東京都新宿区	早稲田大学早稲田キャンパス
	26日	ゆうゆうビジット(福田進一)	大阪市	特別養護老人ホームコティコート北大阪
9月	1日	精神疾患をもつ親に育てられた方のための家族による家族学習会	東京都中央区	朝日新聞東京本社
	7日	第31回九州車いすインバスケケットボール選手権大会(～8日)	佐賀市	市立諸富文化体育館
	14日	みんなでパラリンピック(ポッチャ)	神奈川県逗子市	特別養護老人ホーム逗子清寿苑
	17日	ゆうゆうビジット(日色ともゑ・マリオネット)	東京都大田区	特別養護老人ホーム蒲田
	23日	ゆうゆうビジット(バルリントリオ)	神戸市	介護老人保健施設らぼーと
	28日	認知症マフワークショップ	広島市	TKPガーデンシティPREMIUM広島駅北口
	29日	精神疾患をもつ親に育てられた方のための家族による家族学習会	東京都中央区	朝日新聞東京本社
	29日	朝日こどもの未来 北陸ブロック大会	富山市	富山県民会館
10月	5日	認知症マフワークショップ	大阪市	朝日新聞アサコムホール
	7日	南三陸復興支援(福田翔さんコンサート)	宮城県南三陸町	町社会福祉協議会結の里ほか
	10日	ゆうゆうビジット(日色ともゑ・マリオネット)	岐阜県大垣市	特別養護老人ホーム優・悠・邑 和合
	11日	復興支援プロジェクト(千住真理子さんコンサート)	福島県いわき市、富岡町	富岡漁港ほか4カ所
	16日	台風19号災害救済金開始(～11月15日)	—	—
	27日	精神疾患をもつ親に育てられた方のための家族による家族学習会	東京都中央区	朝日新聞東京本社
	30日	ゆうゆうビジット(福田進一)	静岡市	特別養護老人ホームレジデンス花

11月	2日	認知症カフェセミナー	岡山県倉敷市	川崎医療福祉大学
	2日	みんなでパラリンピック(ボッチャ)	埼玉県毛呂山町	特別養護老人ホームななふく苑
	8日	ゆうゆうビジット(川島成道)	京都市	高齢者介護施設 上桂
	15日	あそびのいえ ファシリテーター養成講座	宮城県東松島市	東松島市コミュニティセンター
	17日	認知症フレンドリーキッズ授業	長崎市	長崎県庁
	17日	認知症フレンドリーキッズ授業	三重県鈴鹿市	イオンモール鈴鹿
	23日	ボッチャ体験&福祉ちよこつと相談会	東京都中央区	月島区民センター
	23日	第61回各派合同三曲演奏会	大阪市	NHK大阪ホール
	25日	認知症フレンドリーキッズ授業	大阪府高槻市	富田小学校
	25日	ゆうゆうビジット(高砂部屋)	福岡市	特別養護老人ホームライフケア柏原
12月	1日	朝日こどもの未来 中四国ブロック大会	広島県尾道市	尾道市民センターむかいしま
	3日	認知症フレンドリーキッズ授業	石川県珠洲市	上戸小学校
	7日	みんなでパラリンピック(ブラインドサッカー)	埼玉県上里町	児童養護施設上里学園
	8日	精神疾患をもつ親に育てられた人のためのつどい	東京都豊島区	としま区民センター
	9日	認知症フレンドリーキッズ授業	大阪市	西天満小学校
	17日	ゆうゆうビジット(ベルリントリオ)	大阪狭山市	特別養護老人ホーム陽だまりの丘
	14日	精神疾患の親をもつ子どものための子ども版家族による家族学習会セミナー	札幌市	TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前
	14日	第40回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会(～15日)	福岡県北九州市	小倉北体育館
	19日	第69回メサイア演奏会	東京都台東区	東京文化会館
	22日	親子で楽しむクリスマスコンサート	東京都千代田区	有楽町朝日ホール
	25日	第67回洋舞台同祭(～27日)	大阪市	フェスティバルホール
	27日	第93回朝日チャリティー美術展・大阪展(～29日)	大阪市	高島屋大阪店
	29日	台風19号災害被災地救援(炊き出し)	福島県いわき市	内郷コミュニティセンター
20年 1月	11日	講演会 精神障害のある人の地域での暮らしを豊かにするために	東京都中央区	朝日新聞東京本社読者ホール
	12日	第40回障害者歩くスキーの集い	札幌市	国営滝野すずらん丘陵公園
	16日	認知症フレンドリーキッズ授業	大阪市	大空小学校
	17日	あそびのいえ	宮城県東松島市	野蒜市民センター
	26日	台風19号災害被災地救援(炊き出し、福田翔さんコンサート)	福島県いわき市	平第四小学校
	28日	認知症フレンドリーキッズ授業	大阪府守口市	梶小学校
	30日	ゆうゆうビジット(ベルリントリオ)	愛知県一宮市	特別養護老人ホーム丹陽
2月	1日	フォーラム 認知症カフェからの出発2020(～2日)	東京都中央区	朝日新聞東京本社読者ホール
	5日	認知症フレンドリーキッズ授業	東京都板橋区	三園小学校
	9日	精神疾患をもつ親に育てられた人のためのつどい	東京都中央区	朝日新聞東京本社読者ホール
	20日	ゆうゆうビジット(福田進一)	東京都練馬区	特別養護老人ホームみさよはうす土支田
	23日	自殺予防公開講座	福岡市	都久志会館ホール
	26日	第66回朝日チャリティー美術展・名古屋展(～3月3日)	名古屋市	名古屋三越栄店

社会福祉事業

CONTENTS

被災地支援

災害時大学ボランティアセンター助成	6
台風19号災害救援事業	8
台風19号災害救援金	9
台風15号災害救援	9
朝日のあたる家	10
復興支援プロジェクト	11
南三陸復興支援	12
グリーンサポート	12
こども応援金	13
東日本大震災 19年度のご寄付	13

子どもの福祉

児童養護施設・里親家庭等の進学応援金、応援生のつどい	14
朝日こどもの未来 ブロック大会(北陸・中四国)	15
シンポジウム ひとり親をめぐる現状と施策	17
第66回朝日夏季保育大学	18

障害のある人の福祉

精神疾患のある親をもつ子どものつどい、学習会など	20
講演会 精神障害のある人の地域での暮らしを豊かにするために	21
みんなでパラリンピック	22
第36回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト	23
自閉症カンファレンスNIPPON 2019	24
視覚障害の大学生のための聖明・朝日盲大学生奨学金	25
第40回障害者歩くスキーの集い	25
第40回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会	26
第31回九州車いすツインバスケットボール選手権大会	26
第38回肢体不自由児・者の美術展/デジタル写真展	27

高齢者の福祉

フォーラム 認知症カフェからの出発2020	28
認知症カフェ運営講座、認知症カフェセミナー	29
国際シンポジウム 認知症の人にやさしい街をめざして	30
認知症フレンドリーキッズ授業	31
認知症マフワークショップ	32
シニア世代の週末特別教室	32
高齢者施設訪問プログラム ゆうゆうビジット	33
朝日高齢者福祉セミナー2019	34



災害時大学ボランティアセンター助成 (九州豪雨、台風19号)

主催：事業団

● 西日本豪雨災害 大学ボランティアセンター公募助成活動報告会

18年度事業として実施した「西日本豪雨災害大学ボランティアセンター公募助成」における採択団体10団体から、合計20名(学生10名、大学職員10名)が一堂に集まり、活動実践の報告や相互交流を図るため、19年5月25日、朝日新聞大阪本社にて活動報告会を開催しました。

10団体のうち3団体(神戸大学、中央大学、松山東雲女子大学・短期大学)より活動実践の発表を行い「戸別訪問をした際に話し相手がないという声を聞き、引き続き何かできないかと考えている」「被災地を特別視している自分を発見し、被災地での生活も日常生活の延長にあるものだと学んだ」といった報告がありました。またすべての団体から活動報告書の提出があり、各団体の活動内容を共有しながら、それぞれの団体の活動を知ることができました。

その後、社会福祉法人大阪ボランティア協会常務理事の早瀬昇さんによる「学生ボランティア活動を充実するために」と題した講義と、グループワークを実施しました。早瀬さん自身が学生ボランティア活動をしていた経験などを踏まえ、今後の活動へのアドバイス、またグループごとに意見交換を行い、交流や学びを深めました。報告会の後は、懇親会を実施、ボランティア活動だけでなく、学生生活についても情報交換を行いました。



● 災害時の早期活動を支援するネットワークづくりへ

地震や台風、水害など、相次いで災害が発生する昨今の状況を受け、速やかに被災地での支援活動に入ることができるよう、上記の採択団体を対象にネットワークを呼びかけました。趣旨に賛同いただいた9大学のボランティアセンターとそれぞれ協定を結び、特に発災直後(概ね3カ月ほどまで)の活動を後押しできる枠組みを整えました。

8月に発生した九州豪雨と、10月に発生した台風19号災害の被災地を対象とした以下の活動に助成金を贈りました。いずれの団体も現地の災害ボランティアセンターなどと調整をとりながら、被災家屋の泥出しや、避難所の訪問・足湯サロンなど、それぞれの大学の強みを生かした取り組みを行いました。

宮城県丸森町で活動を行った学生が、被災地の方々が自分たちの力で町をよくしようと働きかけている様子をWEBページで紹介したところ、地域の方が励みに



被災家屋で活動する神戸大学の学生(佐賀県武雄市)



なると喜んでくれたなどのやりとりもあり、遠く離れた学生の力が現地にも届いている様子がうかがえました。さらに、「被災者の方の今後の身体的・精神的な疲労の状況が気になり。今後も足を運び協力したい」という声も寄せられ、今後もこのネットワークを通じて被災地の皆さんに必要な支援を届けられるよう取り組んでいきます。

対象となる災害	大学名	活動地
九州豪雨(19年8月)	神戸大学	佐賀県武雄市
台風19号災害(19年10月)	中央大学 神戸大学 大阪府立大学	宮城県丸森町 宮城県丸森町 長野県長野市

● 台風19号災害 大学ボランティアセンター公募助成

10月に発生した台風19号は、東日本地域を中心に広範囲にわたり甚大な被害をもたらしました。中長期的な活動に役立ててもらえるよう、18年度の公募助成から第二弾となる「台風19号災害大学ボランティアセンター公募助成」を実施。選考の結果、9団体に1団体50万円を上限とし、総額約410万円を助成しました。

災害時、特に弱い立場に追いやられる福祉的な配慮が必要な方を対象とした事業として公募したところ、避難所で行動が制限される子どもたちへの遊び場づくりや、避難所での足湯サロン、鍼灸ボランティアなどの活動が選ばれました。20年度中には、活動報告会の開催を予定しています。

今後も、協定を結んでいる9大学に加え、今回の採択団体の皆さまとも協働していきながら、迅速な災害支援活動につなげていきたいと考えています。

【助成団体】 東北学院大学災害ボランティアステーション(宮城県)▽仙台大学災害ボランティア派遣組織健康づくり運動サポートグループ(宮城県)▽宮城大学みやぎ食の応援団(宮城県)▽東北公益文科大学地域共創センター(山形県)▽福島大学災害ボランティアセンター(福島県)▽淑徳大学地域支援ボランティアセンター(千葉県)▽中央大学ボランティアセンター(東京都)▽常葉大学Thunder Birds(静岡県)▽大阪府立大学ボランティア・市民活動センターV-station(大阪府)

(高齢者福祉事業として実施)



台風19号災害救援事業(福島県いわき市)

主催：事業団

10月12-13日、台風19号が大型で強い勢力を保ったまま本州に上陸。全国で大規模な河川氾濫や土砂災害に見舞われました。この台風により少なくとも死者66名、行方不明者13名、重軽傷者398名の人的被害が発生しました(10月19日時点、総務省消防庁調べ)。

事業団では、被害の大きかった福島県いわき市内で活動するNPO法人「やってみっぺ久之浜」に対し、復旧・復興活動のための活動費として助成を実施しました。同市では夏井川流域を中心に河川の氾濫が発生し、約6000棟の住宅が被害を受け13名が亡くなるなど甚大な被害を受けました。

● 炊き出しと子ども向けコンサート

「やってみっぺ久之浜」は12月29日、20年1月26日の2回、同市内で水害に見舞われた方々や復旧・復興に向けて活動する方々のために炊き出しを行いました。初回は避難所となっていた内郷コミュニティーセンターで、あえてボランティア支援が少なくなる年末に開催。また浸水した平第四小学校で実施した2回目の炊き出しでは、あそび歌作家の福田翔さんのコンサートを併催し、子どもたちに向けた支援としました。

いずれも調理は久之浜漁協婦人部が担当。地場産の野菜をたっぷり使用した豚汁や、19年に再開を果たした久之浜漁港で水揚げされたサンマのつみれ汁、おにぎりなど。寒い屋外で行われている復旧作業で冷え切った体を芯から温める心づくしのメニューがとても好評でした。

コンサートに子どもと参加した保護者の一人は、「(浸水被害の後)しばらくして日常を取り戻したようには見えませんが、日頃の生活は余裕もなく、毎日をつなぐことで精いっぱい。今回のような機会を通して被災した人たちが集い、あのときは大変だったと被災者同士で話し合いができるだけでも、私たちの気持ちが楽になります。本当にありがたいです」と話していました。

いわき市では現在でも浸水した住宅の2階や避難所で生活をしている人が多く、制限された生活が続いています。事業団ではこれからも被災地のニーズをくみ取りながら支援を続けていきます。

(高齢者福祉事業として実施)



内郷コミュニティーセンターでの炊き出し



平第四小学校での炊き出し



福田翔さんのコンサート



台風19号災害救援金

台風19号で被災された方のため、朝日新聞社と事業団が窓口となり救援金を募りました。10月16日から受け付けた救援金は1カ月間で計4402件、総計8546万3862円に上り、その全額を日本赤十字社に寄託し被災地へ届けました。

その後も福祉的な配慮を必要とする方を対象に実施する、事業団独自の支援事業への募金を呼びかけ、3月末までに902万552円が寄せられました。



台風19号災害救援金の目録を日本赤十字社の大塚義治社長(左)に渡す事業団の飯田真也理事長=11月21日、日本赤十字社本社

台風15号災害救援(千葉県鴨川市)

主催：事業団

9月9日に関東地方に上陸した台風15号は、千葉県を中心に家屋損傷など甚大な被害をもたらしました。事業団は同月30日、緊急支援策として同県鴨川市で救援活動に取り組んでいた民間団体へ必要な資材を提供しました。

団体は市災害ボランティアセンターを拠点に、暴風で破損した屋根のシート張りやその技術を伝える講習会、要配慮者の安否確認などを行っていたNPO法人「災害救援レスキューアシスト」(大阪府茨木市)。現地で不足しているという声にこたえ、屋根の応急処置に必要な耐久性の高い「シルバーシート」や防水テープ類、UV対応の土嚢袋などを贈りました。



(高齢者福祉事業として実施)



朝日のあたる家(岩手県陸前高田市)

主催：事業団、NPO法人福祉フォーラム・東北

朝日のあたる家は、当事業団の震災救援事業に寄せられた寄付金により、13年2月に誰でも気軽に立ち寄り、情報交換をしたり地域に根ざしたイベントを開催する場として岩手県陸前高田市米崎町に開設されました。開設からこれまでNPO法人「福祉フォーラム・東北」の方々と共に歩みを進めて参りました。今年で、みなさまのご支援に支えられ7周年を迎えることができました。

● カフェ、手芸、囲碁・将棋…多彩なプログラム

朝日のあたる家では、地域の方々と一緒に数々のプログラムを開催しています。

認知症の方やそのご家族、地域の方に自由にご参加いただき、認知症の方が住み慣れた地域での暮らしを継続できるよう願う「アップルカフェ(認知症カフェ)」、食べる・作る・会う・参加するすべての楽しみを味わいながら元気を持続していくことを願う「みんなでごはん」、身体の維持だけでなく、心の豊かさを作り上げる「いきいき百歳体操」などを実施しています。その他にも手芸や囲碁・将棋などのサロンや、障がいのある方々がコーヒーを淹れておもてなしする「ほっとカフェ」、館長による「健康相談」など“人と人がつながる場”“共に支え合う地域づくりの場”となっています。

15年5月に敷地内の小高い丘に作られた遊べるモニュメント「虹の架け橋」には、親子連れや地域の小学生たちの楽しそうな声が響き、17年度より実施している「生き生き朝日」(陸前高田市通所型サービスB事業)では、百歳体操や交流活動に熱心に参加されており、子どもから高齢者まで幅広い世代で活用されています。

これからも、地域の方々の交流の場として、引き続き、朝日のあたる家に来られた方が心地よく過ごせるような雰囲気づくりをしていきたいと思えます。

また17年度に購入した車両を利用して利用者の方々の送迎の機会を増やしたり、運転免許を返納された方へのプログラム参加支援など利便性の向上も図っております。

今後も陸前高田市の住民の方々はもちろんですが、地域の関係機関の方々とともにさらに連携を深めながら、朝日のあたる家が地域の資源として根付き、豊かな社会作りに寄与できるよう取り組みを進めていきます。

(高齢者福祉事業として実施)



朝日のあたる家全景



館内での「みんなでごはん」



敷地内の広場



復興支援プロジェクト (福島県いわき市ほか)

主催：事業団 協力：ジャパンアーツ

福島県沿岸の漁業は東日本大震災と原子力発電所の事故以降、汚染水の流出による風評被害に苦しんできました。震災から8年あまりがたった今も、一部を除いて本格的な操業再開が見込めない状況が続いています。今回は漁業再生に力を尽くしている方々からの、「生業の場として思い入れが詰まった漁港での演奏を通じて、ぜひ福島を元気にしてほしい」という声にこたえ、バイオリニストの千住真理子さんが漁業関係者のみなさんに応援の気持ちをお届けすることになりました。



双葉南北小学校

● 漁港や学校など4カ所で演奏

当初は10月11日、12日の2日間を予定していましたが、イベントの進行に重なる形で台風19号が日本列島を北上してきました。このため12日のいわき市久之浜漁港での演奏など3カ所については安全のために開催を延期し、初日の11日のみの開催となりました。

台風接近で雨脚が強まる中、千住さん、ピアニストの山洞智さんの二人が県内4カ所で演奏を行いました。

原発事故でいわき市内に移転を余儀なくされている双葉町立双葉南北小学校では、近所の人たちも体育館に招いて演奏を行い、地元テレビ局のニュースでも放送されました。

このほか、7月に復旧したばかりの富岡町の富岡漁港集会場での演奏会では、漁業関係者の方々に向けて演奏を行いました。大漁旗が掲げられた集会場内で千住さんは、「リラックスして、体中で音を吸い込むように聞いてほしい」と、集まった漁師さんたちに話し、バッハの「G線上のアリア」やホルストの「ジュピター」、「浜辺の歌」などの名曲を演奏。来場した漁師の一人は「初めてバイオリン演奏を生で聞いたが、心に響き胸が熱くなった」と涙ぐみながら喜んでくれました。

その後、久之浜中学校、湯本温泉（いずれもいわき市）の旅館内等でも演奏し、いずれも盛況のうちにツアーを終えました。

(高齢者福祉事業として実施)



富岡漁港



久之浜中学校

南三陸復興支援（宮城県南三陸町）

主催：事業団 協力：ソングブックカフェ

事業団が震災復興支援の助成を実施している南三陸町で、19年度はあそび歌作家の福田翔さんによるコンサートを10月7日に実施しました。災害公営住宅（復興住宅）で生活し出歩く機会の減っている地域住民の方々にイベントの機会を提供し、住民同士の交流の場を設ける目的です。

会場は「入谷ひがし幼稚園」と町社会福祉協議会が運営する交流施設「結の里」の2カ所。小さな子どもやその家族を招待して開催しました。子どもたちや施設の職員、そして近隣に暮らすお年寄りたちが会場を訪れてくれました。

コンサートでは子どもからお年寄りまでが入り交じって一緒に歌ったり踊ったりして、とても楽しいステージになり、子どもたちにましてお年寄りが大喜びする様子がとても印象的な催しとなりました。

（高齢者福祉事業として実施）



グリーフサポート（宮城県東松島市）

主催：事業団 共催：東松島子どもグリーフサポート

東日本大震災以降継続して行っている、津波と地震を経験した子どもや、身近な人をなくした子どもたちを対象にした「心のケア事業」です。

「あそびのいえ」は、子どもたちが悲嘆と向き合いながらそれを乗り越えて安心と希望を持って暮らすために、あそびを通して自分自身のさまざまな感情を受け入れ、自分なりに整理していくプロセスを支援者とともに歩むグリーフケアのプログラムです。

19年度は18年度に引き続き隔月で定期開催することができました。このことで多くの子どもたちが参加するようになりました。

震災から時間が経ち、参加者の方々の悲嘆との向き合い方にも変化が訪れました。19年度からは、震災以外で経験した離別や死別にも目を向け、対象を広げて受け入れることに方針を転換。またファシリテーターについても年1回養成講座を実施し、協力者の拡充に努めています。今後も引き続き子どもたちの安心、安全な居場所作りに向けて取り組んでいきます。

（児童福祉事業として実施）



こども応援金

主催：事業団

震災で両親を亡くした子ども（孤児）に「東日本大震災こども応援金」を届ける事業を継続しています。金額は未就学児・小学生が1人当たり300万円、中学生が200万円、高校生相当年齢が150万円。「自由に使えるお金」として、対象の子どもたちに直接渡してきました。

11年7月から贈呈を始め、20年3月末までに対象と見込んできた220人の9割を超える202人に総額4億8850万円を贈ることができました。

東日本大震災へのご寄付、19年度は531万円

事業団の東日本大震災救援事業へ19年度に寄せられたご寄付は、530万5268円に上りました。

東日本大震災救援募金（震災直後から12年3月末まで実施）も含めたご寄付の累計は、20年3月末で約9万件、総額37億4502万4872円となりました。

【年度別】10年度 17億1703万9856円▽11年度 17億9627万3050円▽12年度 1億1362万4052円▽13年度 4572万1384円▽14年度 2359万9869円▽15年度 1847万7091円▽16年度 955万8676円▽17年度 767万8278円▽18年度 774万7348円



児童養護施設・里親家庭等の進学応援金・応援生のつどい

主催：事業団 協賛：原田積善会

児童養護施設や里親家庭などの社会的養護で暮らし、将来に向けて大学や専門学校等に進学する方に対して応援金を贈る「児童養護施設・里親家庭等の進学応援金」は、今年で12回目となりました。この事業は多くの方々から寄せられたご寄付と山岡こども応援資金や原田積善会などの皆様の善意に支えられて実施しています。おかげさまで16年度から贈呈額と贈呈する人員を増やすことができました。入学金(実費)に加え「学生応援金」として年間60万円(最大360万円)を卒業するまで贈るもので、本内容での事業実施は4年目を迎えました。今年度は全国から203名の応募があり、30名の方を内定とさせていただきます。

毎年実施している「進学応援生のつどい」ですが、19年度は20年3月18日、19日に予定をしていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、参加者のみなさまの健康と安全を考慮し、やむを得ず中止いたしました。改めて20年度に向けて応援生の皆さんが集まれるイベントを企画したいと考えております。

当事業団の進学応援金は、入学から卒業をするまで対象者に応援金を贈ることから、在学中も連絡を皆さんと取り合っています。

20年度からは、国の新しい給付型奨学金制度が始まるなど、社会的養護を取り巻く環境は大きな変化を迎えています。これからも事業団は応援生のサポートができるような体制づくりを進め、新しい取り組みを進めていきたいと思っております。

<20年3月で卒業を迎えた応援生より>

- みなさまからいただいた応援金で学費の大部分をまかなうことができ、2年間で自分の本当に学びたかったことをたくさん学ぶことができました。就職活動も無事に終わり、内定をいただいた航空会社に入社する運びとなりました。これからも夢に向かって精進します。
- 3年間充実した学生生活を送ることができたのは応援金があったからです。卒業後は学生生活で学んだことを生かし社会に貢献していきたいと思っています。3年間ありがとうございました。

<在学中の応援生からの近況報告>

- 私は、児童養護施設に8年間いました。年が上がるにつれて夢を持ち、そのためにはどこに進学して何の資格をとらないといけないのかを知りました。ただその中では学費がかかり一時はあきらめようともしていました。ですが応援金をいただくことができ、自分の夢を追うことができました。自分もいつかは社会に出てこの夢を追いかけてきて良かったと思えるように、日々頑張って勉強に励んでいきたいと思っております。
- 自分の“たくわえ”になるような知識や経験をたくさんできる日々や時間にとっても感謝しています。どうぞこれからも同じような境遇にある子たちにこのような経験が与えられますように。
- 私は犬の美容師・トリマーの専門学校に通っています。毎日の授業や実習はとても濃密でついていくのがやっとの状態ですが、大好きな犬に囲まれたり、知らない知識や技術が自分に吸収されていく感覚がありとても有意義に感じています。学校でできた友人たちと切磋琢磨していきたいと思っております。
- いつもご支援いただきありがとうございます。今年の4月から大学3年生になります。今年から更に専門的な学びになります。私は今、国際移民の問題について自分なりの解決法を探しています。具体的な夢はまだありませんが、好きなことを仕事にできるように頑張りたいです。



朝日こどもの未来 ブロック大会(北陸、中四国)

～こどもたちの希望をつなぐ 新しい支え合いの形をめざして～

主催：事業団、協力：NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ

厚生労働省が発表した16年の国民生活基礎調査によると、18歳未満の子どものうち13.9%が貧困状態にあるとされています。経済的な問題はもちろん、それにより生じる社会とのつながりや自信の欠如などは、周囲から見えづらく、子ども自身も気づきにくいと言われています。

そうした状況を受け、子どもの居場所づくりをはじめとした、地域の子どもの子育て世帯を支える活動が全国的に増えています。支援に取り組む人たちが、互いにできること、協力してほしいことを示し合い、子どもたちへの多様な関わりや、出会い、経験、時間を提供する連携が求められています。地域ごとに大きく事情も異なることを踏まえつつ、各地でその輪づくりに取り組む皆さんを応援するため、18年度に引き続き、地域ブロックごとの研修会を開催しました。

● 北陸ブロック大会

9月29日、富山市の県民会館に、新潟・富山・石川・福井の四県を対象に、居場所づくりなどを行っている民間団体や、社会的養護で育つ子ども・若者を支える団体、行政や社会福祉協議会の職員など、多様な立場から子どもや子育て家庭の支援に取り組んでいる約45人が集いました。



基調講演は、湯浅誠さん(社会活動家・東京大学特任教授)による「誰も取りこぼさない社会をつくる」。まず、湯浅さんは、黄信号、赤信号などに例えながら、7人に1人と言われている子どもの貧困問題について説明。周囲の目を気にせず、誰もが安心して参加できる居場所が必要とされている状況について解説しました。子どもや家庭の困りごとへの「気づき」を、専門機関や制度へ「つなぐ」流れをつくるなどし、地域内のさまざまなセクターが、目線を合わせながら互いにできることを持ち寄っていくことが、誰もとりこぼさない社会につながると話しました。

そのあと、実行委員企画「アフタヌーン・セッション」を開催。湯浅さんの講演を受け、「誰もとりこぼさない地域をつくるには」というメインテーマのもと、四つのテーブルに分かれ、意見交換を行いました。各県の実行委員がテーブルの進行役を務め、参加者からは「どの機関がどういったことに困っているのか、リアルな声が聞けた」「他県の状況が参考になった」などの感想が寄せられました。

最後のプログラムでは、早瀬昇さん(大阪ボランティア協会理事長、特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会副代表理事)が「参加の力」が創る共生社会」というテーマで講演。ボランティアや支援者などの関係者へ、「参加」という課題解決に取り組む機



会を提供することで、当事者意識を抱く人々の輪を広げることができると説明。参加の力を活かすことで、人的・財政的基盤を固め、「誰もが助けられ合える社会づくり」の実践を呼びかけました。

● 中四国ブロック大会

12月1日には、広島県尾道市の尾道市民センターむかいしまに、中国四国の各県から約70人が集いました。

湯浅誠さん、早瀬昇さんの講演のほか、下記の三つの分科会に分かれ、各県の取り組みや課題を共有し、意見交換の時間を設けました。



講演する湯浅誠さん

分科会① 「寄付月間！協力や支援の輪を広げるために」

児玉頼幸さん(山口せわやきネットワーク こども明日花プロジェクト代表)

三島理恵さん(日本ファンドレイジング協会CSR/NPOコンサルタント)

分科会② 「地域ネットワーク～それぞれの今とこれからの課題～」

直島克樹さん(川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科 講師)

福安潤一さん(とっとり子どもの居場所ネットワーク "えんたく")

乃万由佳さん(香川県社会福祉協議会)

分科会③ 「子どもの居場所を支える、自治体関係者トーク」

越智誠輝さん(広島こども食堂支援センター代表)

金近和博さん(周南市次世代支援課次世代支援担当係長)

西永加奈さん(尾道市子育て支援課)

すべてのプログラムを終えた後、一日を通して得た気づきや、今後の事業展開などについて参加者同士が意見を出し合い、講師の湯浅さんと早瀬さんにそれぞれコメントをいただきながらクロージングとなりました。参加された方からは、「各地域・立場での意見交換ができ今後の展開のイメージが持てました(NPO団体)」「行政、民間、それぞれの強みと弱みを補い合い、地域としてよりよい体制づくりをしたいです(公務員)」といった感想が寄せられました。



それぞれの思いや行動が連動し、子どもの幸せを願う活動を前に進める力になれば幸いです。



シンポジウム ひとり親をめぐる現状と施策(東京)

～今求められていること～

主催：事業団 後援：東京都社会福祉協議会、東京都ひとり親家庭福祉協議会

ひとり親をめぐる現状と施策を考えるためのシンポジウムを、4月20日、東京都千代田区の有楽町朝日スクエアで開催しました。日本のひとり親家庭は、高い就業率にありながらも就労収入が低いことが特徴で、他国との比較の中でも相対的貧困率が高い水準にあることなどが問題提起されています。こうした状況を踏まえ、当日約100人の参加者とともに、今必要とされているひとり親家庭への福祉について考えました。

まず、法政大学大原社会問題研究所教授・藤原千沙さんの基調講演「ひとり親をめぐる現状と施策」では、統計を基にした経済的困難の実態や、施策の在り方について解説。日本の母子世帯は、就労率が高いにも関わらず貧困状態から抜け出しづらいという構造上の問題点や、所得再分配の効果が少ないなどの特徴について解説がありました。

一方、ひとり親を支える施策については、「就業・自立に向けた総合的な支援」として就労支援に重きが置かれ、現金給付が縮小された経緯を説明。サービス給付の一つである日常生活支援事業を例にとりながら、実施状況については自治体ごとの格差が顕著であることなどを指摘し、政府の役割や責任の大きさについて言及しました。

続いて、NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ理事長の赤石千衣子さんからは、「ひとり親の福祉をより充実させるために」というテーマで、長年支援に携わる中で寄せられている当事者目線での困難について報告がありました。頼れる親族の不在や、養育費の不払い、子どもが病気時のサポートや仕事との両立など、困りごとの声が多く届くと言います。そうした、ひとり親の生活実態と現状の施策のギャップを指摘する中で「全体としてどうなのかという検証が必要」とし、児童扶養手当の拡充などを訴えました。

後半のパネルディスカッションでは、シングルマザーの当事者と、進行役として朝日新聞社の杉原里美記者が加わり、ライフステージごとの当事者から見た困りごとや、移住支援などを始めとする各地の自治体の取り組みと課題点などが話されました。また、当事者の方からは、「社会の実態が変わっていく中、制度の外にいる人たちの声を聞いて制度改革に反映させていくことが大事」との声があり、ひとり親の声を響かせながら、多様な家族のかたちを前提とした社会をめざすことの必要性が話し合われました。





第66回朝日夏季保育大学(長野県諏訪市)

「子どもの自己決定とは？」

主催：事業団 共催：長野県諏訪市

後援：長野県、全国社会福祉協議会、長野県社会福祉協議会、長野朝日放送

保育士や幼稚園教諭が子どもたちとの関わり方について学ぶ「第66回朝日夏季保育大学」が7月19日、20日の2日間にわたり、長野県諏訪市の諏訪市文化センターで開催され、のべ約1000人が参加しました。

19年度の保育大学では、「子どもの自己決定とは？」というメインテーマを掲げ、昨今、子どもたちを取り巻く環境が絶えず変化している中、子ども自身が主体的に社会に関わり、いかに自身の将来に明るい希望を持ちながら過ごしていけるか、それを実現するために子どもに関わるすべての人たちがどのような視点を持つべきかを学びました。

1日目は、3名の講師が登場されました。

ミュージシャン、マジシャン、翻訳家の大友剛さんは、子どもの世界を彩る3つの魔法(マジック、音楽、絵本)を使いながら、オープニングステージを披露しました。豊かな表現力で繰り広げられるステージに、参加者も大友さんが繰り出すたくさんの魔法を堪能することができました。

山梨県立大学教授の西澤哲さんは、虐待を受けた子どもたちが、本来の自分を取り戻すために必要なことは何かというテーマで話され、周囲の人が関わるうえで大切にしなければならないことなどを、時折ユーモアを交えながら話しました。

玉川大学教授の大豆生田啓友さんは、子どもの自己決定を育む保育と題して、子ども自身が主体的に関わっていくために周囲の人たちの支え方などについて、保育現場での実際のエピソードの紹介を交えながら、自己決定を支援することの大切さについて、話されました。



高野優さんによる描き下ろしイラスト



大友剛さん



西澤哲さん



大豆生田啓友さん

2日目は4名の講師が登場されました。

諏訪保育園園長の島本一男さんは「食育」について、「食育」の持つ可能性はもちろん、「食」から広がる子ども自身の生活、食育の本質を考えながら、保育の中で給食が果たす役割などについて話がありました。

鶴見短期大学部教授の天野珠路さんは、「災害時、保育園等に求められることとは」というテーマで、昨今の様々な自然災害が多発している中で、災害時に保育園が求められることや、子どもの心身を守り支えるために行うこと、日頃から準備しておくべきことなど、現場での実践につなげられるような視点で話がありました。

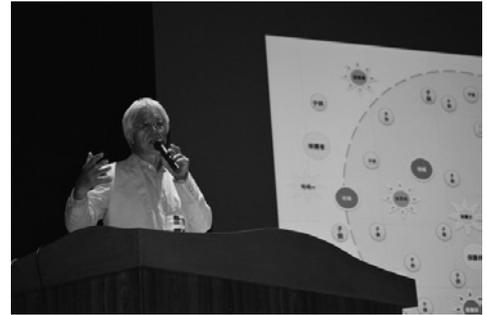
保育コミュニケーション協会代表の松原美里さんは、「保育士コミュニケーション講座」を開催、子どもたちにより良い支援を行うために、同僚の保育士とのチームワークの醸成など良好な関係を築くには、どのようなことを心がけたら良いのかなど、グループワークなどを交えながら、現場での実践につながる話がありました。

育児漫画家の高野優さんは、「心豊かに子育て支援」というタイトルで講演し、イラストを描きながら、話をするという独特のスタイルで、ご自身の育児に関するエピソードを交えユーモアたっぷり、そして、感動的なエピソードも交えながら話されました。最後にはじゃんけん大会を開催、参加者の笑顔が自然と出てくるような時間を過ごしました。

参加者からは「ピアノの楽しい弾き方やマジックなど、保育に生かしたい」「給食時のあいさつの部分、好き嫌いについて考えさせられた」「災害時に命を守る責任、迅速な判断や地域との連絡の大切さがわかった」「保育の仕事に誇りを持った」などの感想が寄せられました。

2日間の講演を通じて、参加者の皆さんが学ばれたこと、経験されたことが、日頃の子どもたちとのより良いかわりにつながっていく一助になれば、主催者といたしまして、この上ない幸せです。

そして、これからの新しい社会を担う子どもたちへの支援がさらに充実し、子どもたちが自分たちの未来に明るい可能性を見つけ、着実な歩みをしていけるような社会となりますよう、心から願っております。



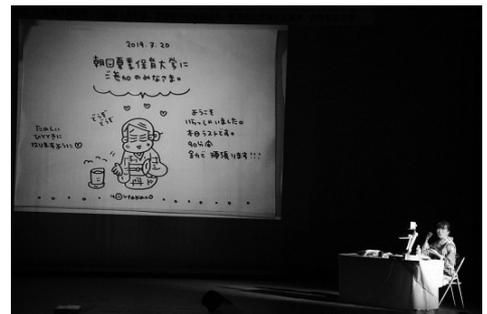
島本一男さん



天野珠路さん



松原美里さん



高野優さん



最後を締めくくったじゃんけん大会



精神疾患のある親をもつ子どものつどい、学習会など (東京、札幌)

主催：精神疾患の親をもつ子どもの会・こどもぴあ、事業団等

精神障害のある人やその子どもたちが安心して暮らせる地域社会を目指し、2018年1月に発足した、「精神疾患の親をもつ子どもの会・こどもぴあ」との活動を継続しています。

「こどもぴあ」は、精神疾患の親に育てられた人たちが、お互いの経験を語ることで支えあおうと、18年1月に発足した会です。埼玉県立大学の横山恵子教授(精神看護学)らが15年から開く子どもの立場向けの家族学習会などで出会い、交流を続けてきたメンバーが立ち上げました。

これまで、そうした子どもの立場の人同士が出会い、自分の家庭の話を打ち明けることができる場はほとんどなく、孤独な気持ちで生きてきた人も少なくありません。

子どもの立場が出会える場・集える場をつくり、今現在困難な状況にある子どもたちがSOSを発するきっかけをつくっていけるよう、当事業団は、18年度より、「こどもぴあ」とともに活動を行っています。

● 精神疾患をもつ親に育てられた人のための「つどい」家族学習会

「こどもぴあ」が続けている「精神疾患をもつ親に育てられた人のための『つどい』」を、6月30日(朝日新聞東京本社・読者ホール)、12月8日(としま区民センター)、20年2月9日(朝日新聞東京本社・読者ホール)の3回、共に開催。事業団は運営のサポートにあたっています。

20歳代から60歳を超える幅広い年齢の方々、30人~40人程が参加し、体験を語り合いました。参加者からは「語り合うことができ自分一人じゃないと強く思うことができた」「今まで友人やまわりの人に自分の境遇を打ち明けることができなかつたので、こういった場に参加でき、自分にとって意義のあるものになった」などの感想が寄せられています。

また、7月から10月にかけて、子どもの立場の「家族による家族学習会」(全国精神保健福祉会連合会共催)を、朝日新聞東京本社内の会議室で開催。1回3時間、全5回を通して、精神疾患や各年齢期での体験の例などが記載されているテキストにそって自身の体験を振り返り、参加者同士語り合います。話の進行役は研修を修了している「こどもぴあ」のメンバーが担当します。

19年度は5人が参加。終了後も、「こどもぴあ」の運営にかかわる仲間としてつながっています。

● 家族学習会セミナー

北海道で活動している、「精神疾患の親をもつ子供の会星の家・こどもぴあ札幌」と「こどもぴあ」の主催で、「家族学習会」の活動を広げていくためのセミナーを、12月14日、札幌市・TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前で開催しました(全国精神保健福祉会連合会、事業団共催、札幌市精神障害者家族連合会、地域精神保健福祉機構後援)。

事業団は、今後、北海道での継続した学習会の開催と、北海道の子どもの立場の仲間がつながることを願い、運営のサポートを行いました。当日は、子どもの立場約10人、支援者の立場約10人が参加。子どもの立場の体験発表、グループワークを通して体験を共有し、子どもの立場への理解を深めました。

今後も学習会の継続が検討されており、当事業団でも引き続き、札幌での活動を応援していきます。



●「こどもびあ」立ち上げ期のサポート

メンバーが安心して活動を続けられ、会の未来について考えていけるよう、事業団は、「こどもびあ」の運営会議を共に開催するなど、運営のサポートを行っています。年に1回、「こどもびあ札幌、大阪、福岡」のメンバーも顔をあわせ情報交換できる時間も設けています。また、11月には、「こどもびあ」メンバーの研修会を、神奈川県・レクトール湯河原で開催。小島リベカさん(国立がん研究センター中央病院緩和医療科ホスピタルプレイスタッフ)を講師に迎え、講義とワークショップを実施。自身を振り返るとともに、今後、ピアサポート活動を継続していく中で「ゆらぎ」を感じた際に対処できる力をつけることを目指しました。また、「こどもびあ」の未来を考えていくワークショップでは、メンバーの一人ひとりの「強み」に目を向け、今後取り組んでいきたいことや、そのために一人ひとりが果たせる力を確認しました。

子どもの立場の当事者活動を全国に広げ、一人でも多くの「子どもの立場」の人とつながることができるよう、「こどもびあ」との活動を継続していきます。



○ 講演会「精神障害のある人の地域での暮らしを豊かにするために」(東京)

～本人を中心に多様なアウトリーチ支援を考える～

主催：事業団 後援：地域精神保健福祉機構、全国精神保健福祉会

精神障害のある人の地域での暮らしを豊かにするために必要なことを考える講演会を、20年1月11日に、朝日新聞東京本社・読者ホールで開催し、約100人が参加しました。

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域・司法精神医療研究部長の藤井千代さんが「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの実践」について整理した後、社会福祉法人サンワーク南八幡メンタルサポートセンター施設長坂本祐子さんとピアスタッフの芥川翔さんが、「つながろう！地域にある資源」というテーマで、地域活動支援センターのあり方やサービスにつながるまでのことを話しました。



後半は、様々なアウトリーチ支援の実践例を通して、今後の地域のあり方を考えるシンポジウムを実施。精神科の病床数を大幅に減らした千葉県にある旭中央病院の実践や、所沢市のアウトリーチ支援事業、千葉県市川市のリハビリサポートセンターACTIPSで行っているFUNチームの活動についての実践を聞きました。FUNチームは、ACT(包括型地域生活支援プログラム)の基準にはあてはまらないけれど地域生活を楽めないでいる人を対象に、多職種によるアウトリーチ支援を提供しています。実践報告はそれぞれ、青木勉さん(総合病院国保旭中央病院院長補佐兼精神科・児童精神科主任部長)、西内絵里沙さん(国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域・司法精神医療研究所所沢市アウトリーチ支援チームケースマネージャー)、逆井裕美さん(認定NPO法人リハビリサポートセンターACTIPS訪問看護ステーションACT-J)からいただきました。

藤井さんの進行によるパネルディスカッションでは、精神障害に対するスティグマへの対応についても焦点があてられ、これが地域包括ケアシステムをつくっていくうえで一番大事なのではないかと、藤井さんが強調。また「地域からみた病院」についても言及され、医療と福祉の連携の大切さが確認されました。



みんなでパラリンピック(東京、神奈川、埼玉)

児童養護施設でブラインドサッカー、高齢者施設でボッチャ体験会

主催：事業団

東京パラリンピックを前に、障害者スポーツに触れる機会が少ない施設の入所者に楽しさを知り、障害への理解を深め、心のバリアをなくし交流してもらうことを目的に児童養護施設と高齢者施設でブラインドサッカーとボッチャの体験会を実施しました。

●「見えないってどういうこと？」を体験

視覚障害者への理解とコミュニケーション方法を知るブラインドサッカー体験会を関東の児童養護施設で開催し、施設で生活する小・中学生や高校生らが職員と一緒にブラインドサッカーを楽しみました。講師はブラインドサッカー日本代表キャプテンの川村怜(りょう)選手と児童養護施設出身で埼玉のチームで活躍する辻一幸選手、日本ブラインドサッカー協会スタッフの皆さん。アイマスクを着けて準備体操やパス、ドリブルなどを体験しました。

川村選手は「今後、友だちと話す時にどんな声かけをしたら良いか、どう伝えたら親切か、今日の体験を普段の生活で生かしてください」とメッセージを送りました。上里学園の戸澤武史施設長は「楽しく体験した。子どもにも笑顔も多かった。視覚障害者だけではなく人と付き合う中で『あの時にこんなことがあったな』とつながることもあると思う」と話しました。

【訪問した児童養護施設】 ①児童養護施設聖園子供の家(神奈川県藤沢市、5月4日)②児童養護施設至誠学園(東京都立川市、5月18日)③児童養護施設上里学園(埼玉県上里町、12月7日)。①は川村怜選手と協会スタッフ、②③は辻一幸選手と協会スタッフが訪問。



● 地元中学校やろう学校の生徒が運営ボランティア

「床上のカーリング」とも呼ばれるボッチャ。ロンドンパラリンピック日本代表・秋元妙美選手や同監督で日本ユニバーサルボッチャ連盟・古賀稔啓理事長らを講師にお招きし、特別養護老人ホーム逗子清寿苑(神奈川県逗子市、9月14日)と、聴覚障害者のための特別養護老人ホームななふく苑(埼玉県毛呂山町、11月2日)の皆さんがボッチャを体験しました。

ななふく苑では隣接するろう重複障害者支援施設「ふれあいの里どんぐり」の入所者も参加し一緒にボッチャを楽しみました。ボランティアで参加した地元の川角中学校と坂戸ろう学園の生徒は手話を使いながら審判、高齢者の誘導など運営をサポートして体験会を盛り上げてくれました。





第36回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト (東京)

主催：全日本ろうあ連盟、朝日新聞厚生文化事業団、朝日新聞社

後援：厚生労働省、文部科学省、テレビ朝日福祉文化事業団、日本手話通訳士協会、全国聾学校長会

協力：東京都聴覚障害者連盟 協賛：NEC

1984年から手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進を目的に始まった「全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」。36回目となった今回は、8月24日に東京都千代田区の有楽町朝日ホールで開催しました。全国の応募者57人から原稿と映像の審査で選ばれた高校生10人が「私の学校生活」「未来の私への手紙」のいずれかからテーマを選び、手話でスピーチを披露。日ごろの練習の成果を競いました。

第1位には安江瑞紗さん(愛知県・桜花学園高校3年、写真右)が輝きました。安江さんは「将来の私への決意」と題して、手話を用いて活動するシンガー・ソングライターになりたいという、自身の夢についてスピーチ。「より多くの人の偏見をなくすため、手話を広げる活動をしていきたい」と会場へ語りかけました。2位には西垣佳純さん(熊本県立熊本聾学校高等部3年)、3位には川越まいさん(愛媛県・済美高校3年)が選ばれました。入賞者には賞状とトロフィー、協賛のNECからノートパソコンやタブレットなどの賞品が贈呈されたほか、参加者全員にNECからコンテストの録画DVDが贈られました。



また、秋篠宮家の長女眞子さまが出席。眞子さまは、開会式で全てのスピーチを手話を交えて行い、「出場される皆さまが、自分の思いや考えを豊かな手話で表現なさるのを楽しみにしております」と出場者にエールを送りました。

特別プログラムでは、陸上選手の佐々木琢磨さんが「将来のデフ世界のために」というテーマで講演。2017年にトルコで開かれたデフリンピック・男子400メートルリレーで勝ち取った金メダルも披露し、競技へかける思いや、出場者へのメッセージを力強く訴えました。

審査員は小椋英子・日本手話通訳士協会会長、金原辰夫・厚生労働省障害保健福祉部企画課自立支援振興室長、栗野達人・東京都聴覚障害者連盟会長、石橋大吾・全日本ろうあ連盟理事、山根昭治・全日本ろうあ連盟理事、板垣哲也・朝日新聞論説委員のみなさんに務めていただきました。

3位までを除く入賞者と出場者は次の通りです。(敬称略)

- 【奨励賞】 中村桃香(神奈川県立高浜高校3年)
大野瞳子(東京都立瑞穂農芸高校1年)
- 【出場者】 藤井桃菜(大阪府立柴島高校2年)
恩庄真輝(和歌山県・きのくに国際高等専修学校3年)
福田あさひ(広島県・AICJ高校3年)
中山桜(福岡県立三井高校3年)
工藤彩乃(大分東明高校3年)



自閉症カンファレンスNIPPON 2019 (東京)

主催：自閉症カンファレンスNIPPON実行委員会、日本自閉症協会、事業団

後援：厚生労働省、文部科学省、日本知的障害者福祉協会

近年、社会的に関心の高い発達障害のなかで、その中心的な(中核)障害である自閉症(ASD)の人たちへの支援の会議として、長年、全国のたくさんの方々から親しまれ、ご参加をいただいている「自閉症カンファレンスNIPPON」。18回目を数える本年度も、8月24日・25日の2日間、東京都新宿区の早稲田大学で、福祉・教育・医療関係者、家族ら約1000人に参加いただき、自閉症の人の社会生活を支えるための最新情報の共有、実践発表、研修、交流の場として、国内屈指の催しとなりました。



当事業団は、1989年に米国ノースカロライナ大学で開発された包括的な自閉症支援のシステム「TEACCHプログラム」による5日間にわたるトレーニングセミナーを日本で初めて開催したのを皮切りに、数多くの自閉症に関する事業を展開してきました。以来、数々の講演会やセミナーの開催をはじめ、ガイドブックやDVD(ビデオ)の制作と普及、人材育成のための研修留学生の米国への派遣などを通して、自閉症の人の正しい理解と支援を広げるために、さまざまな事業を実施しました。その成果は、現在の日本の学校教育や家庭、福祉現場ほかでの自閉症の人への支援が、それまでとは違って明らかに進歩を遂げたと言われ、自閉症の人の家族をはじめ、福祉、教育、医療など、各関係者から高く評価をいただいています。

これらの事業は、TEACCHプログラムを日本に初めて紹介した故佐々木正美・川崎医療福祉大学特任教授(元朝日新聞厚生文化事業団理事)のご尽力と、当事業団への長年にわたるご協力によって推進されてきたものです。佐々木教授を中心に、日本国内で活躍する専門家や実践家が集まりスタートさせた実践研修の場が「自閉症カンファレンスNIPPON」で、今回が1989年の日本初のトレーニングセミナー実施から30年目にあたります。この間、LD(学習障害)やADHDといった、ほかの発達障害に関する講演会やガイドブック制作などの事業を同時に実施しながら、当事業団はこの自閉症の問題への取り組みを一貫して継続してきました。

今回の開催に合わせ、米国ノースカロライナ大学のTEACCH自閉症プログラム(旧TEACCH部)からクリスチナ・オラホバツ／臨床ディレクターが来日。自閉症の人の学習の仕方についての基本的な講義と、人生全般に対する支援とサービスについて、最新の実践をご紹介いただきました。このほか、3つのテーマ別に合計12の日本国内の実践報告を聞く分科会や、各地での実践活動を自主参加で報告し、参加者との交流を広げるポスターセッション、初心者向けの入門解説講座「基礎からの構造化」、「コミュニケーションセミナー」など、今回も盛りだくさんのプログラムが行われました。

自閉症の人への理解を深め、正しい支援の実践を広げようと2002年から開催するカンファレンスの運営は、国内の現場で活躍する専門家や実践家17人で構成する実行委員会と、延べ100人を超える若いボランティアスタッフによって支えられています。次代を担う若い人たちの育成をも視野に入れたユニークな運営のコンセプトと手法は、国内外から高く評価を得ています。

視覚障害の大学生のための聖明・朝日盲大学生奨学金 (東京)

主催：事業団、聖明福祉協会

視覚障害のある大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」の第51期貸与式が7月6日、ホテルグランドヒル市ヶ谷(新宿区)で行われました。新奨学生には筑波技術大学の齋藤希璃さんと京都文教大学の藤原彩香さんが選ばれました。

貸与式では聖明福祉協会の本間昭雄理事が「一番大事なのは人間性、人柄です。それらを身につけ、将来に夢と希望を持って頑張ってください」とお祝いの言葉を述べました。続いて、当事業団の是永一好事務局長が審査経過につ

いて報告し、厚生労働省の金原辰夫自立支援振興室長や日本盲人会連合の竹下義樹会長らが励ましの言葉を贈りました。齋藤さんは理学療法士、藤原さんは精神保健福祉士や臨床心理士を目指すと話しました。

この奨学金は、視覚障害の学生を対象として1969年に日本で初めて設けられ、奨学生OBは弁護士や大学教員、社会福祉や行政などさまざまな分野で活躍しています。これまでの奨学生は214人で、奨学生には毎月4万円を貸与しています。



第40回障害者歩くスキーの集い(北海道)

主催：事業団、朝日新聞北海道支社 協賛：三菱電機

障害のある人もない人も一緒に歩くスキーを楽しむ「障害者歩くスキーの集い」を、20年1月12日、札幌市の国営滝野すずらん丘陵公園で実施、天候にも恵まれ約130人が気持ちのいい汗を流しました。例年になく雪不足で開催が心配されましたが、北海道歩くスキー協会など運営関係者がコースに雪を寄せるなどして開催にこぎ着けました。

参加者は1、3、6キロの3コースに分かれ、それぞれのペースで歩き、全員が無事に完走。「楽しく滑れた」「気持ち良かった」と満喫した様子でした。





第40回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会 (福岡県北九州市)

主催：九州車いすバスケットボール連盟、事業団

第40回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会が、12月14、15日の両日、福岡県北九州市の小倉北体育館ならびに北九州市障害者スポーツセンター「アレアス」で開催され、九州・沖縄から参加した10チームがトーナメント方式で熱戦を繰り広げました。

決勝に進んだのは、「ライジングゼファーフクオカWheelchair」* (福岡) と「SEASIRS (シーサーズ)」(沖縄)。フクオカは3連覇を目指し、SEASIRSは11年度以来2度目の優勝を狙います。結果は、SEASIRSが52対37での勝利。3位には大分の「太陽の家スパーズ」が入りました。

上位3チームは、「日本選手権大会西日本予選」(20年9月、愛媛)への出場権を獲得し、西日本予選で3位までに入れば、「天皇杯第48回日本選手権大会」(21年1月、東京)へ出場できます。

※「ライジングゼファーフクオカ」は、昨年までの「福岡breeze」が名称を変更したものの。



第31回九州車いすツインバスケットボール選手権大会 (佐賀市)

主催：九州車いすバスケットボール連盟、九州車いすツインバスケットボール委員会 共催：事業団

第31回九州車いすツインバスケットボール選手権大会は9月7、8日の両日、佐賀市の市立諸富文化体育館で開かれ、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、沖縄の6県から9チームが参加し、トーナメントでの熱戦を展開しました。

車いすツインバスケットボールは、上半身に障害を持つ人も参加できるように日本で考案された競技で、正規のゴールに加えてフリースローサークルの中にもう一つ高さ1.2メートルの低いゴールを設置します。選手は障害の程度によって狙えるゴールが決められており、選手一人ひとりが障害の程度に応じて存在感を発揮できます。

決勝では、沖縄フェニックスが55対51で博多パトラッシュ(福岡)に競り勝ち、6回目の優勝を決めました。





第38回肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展 (東京、福岡ほか)

主催：日本肢体不自由児協会など 後援：厚生労働省、文部科学省、事業団など

肢体不自由児・者の生きがいづくりと、障害のある人に対する理解を深めることを目的に「第38回肢体不自由児・者の美術展と同デジタル写真展」が12月12日から15日まで東京芸術劇場(豊島区)の5階ギャラリーで開催されました。同展には、全国の肢体不自由児・者から美術展へ645点(絵画、コンピュータアート、書)の応募があり、特賞、優秀賞、佳作賞、努力賞の計122点が選ばれました。デジタル写真展では800点の中から特賞、金賞、銀賞、銅賞の計101点が選ばれました。当事業団からは特賞に朝日新聞厚生文化事業団賞を贈りました。

また開催初日には表彰式が行われ、常陸宮殿下もご臨席され、受賞作品をご覧になり受賞者とも歓談をされました。

なお、同展は20年3月2日～8日まで福岡県にて開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から中止となりました。

【厚生労働大臣賞】

- | | |
|----|------------------------|
| 絵画 | 山下優希(小郡市立三国小学校5年) |
| 書 | 藤野美穂(青森県立青森第一高等養護学校2年) |

【文部科学大臣奨励賞】

- | | |
|----|------------------------|
| 絵画 | 川上裕己(大阪府立箕面支援学校高等部1年) |
| 書 | 工藤恒友(青森県立青森第一高等養護学校2年) |

【東京都知事賞】

- | | |
|-----------|----------------------------|
| コンピュータアート | 倉本雅也(訪問大学おおきなき) |
| 書 | 湯谷天音(筑波大学附属桐が丘特別支援学校高等部1年) |
| 書 | 上久保知奈(青森県立八戸第一養護学校高等部1年) |

【朝日新聞厚生文化事業団賞】

- | | |
|----|----------------------------|
| 絵画 | 工藤陽那汰(むつ市立第三田名部小学校4年) |
| 書 | 林屋実希(筑波大学附属桐が丘特別支援学校中学部1年) |

フォーラム「認知症カフェからの出発2020（東京）」

主催：フォーラム「認知症カフェからの出発2020」実行委員会、事業団

「認知症カフェのありようを、『認知症になっても安心して暮らせる地域』に広げていくために」をキーワードに、活動を継続するうえで大切にすべきことや、カフェの今後の可能性、地域づくりに必要なネットワークを考えるフォーラムを、20年2月2日、朝日新聞東京本社・読者ホールで開催。認知症カフェの運営にも携わる、武地一さん（藤田医科大学医学部認知症・高齢診療科教授）と矢吹知之さん（認知症介護研究・研修仙台センター研修部長）、ノンフィクションライターの中澤まゆみさんらを講師に迎え、各地から約120人が集まりました。

認知症のあるご本人や、ご本人とともに活動をしている「本人会」からのメッセージ、武地さん・矢吹さんの対談といったプログラムを通し、「認知症になっても安心して暮らせる地域」を見つめ直し、そのような地域をつくっていくための認知症カフェの役割や、意義を整理しました。それらを踏まえ、ワークショップで参加者各々がかかわっている認知症カフェでは何を大切に、どのようなことを実現していくかを明確にし、それを地域の中に広げていく方法を考えました。

ご本人の声については、レビ-小体型認知症のある当事者・平みきさんの思いを日ごろより一緒に活動されている「ゆずり葉の会」代表取締役の鈴木和恵さんからお話いただきました。本人会については、「相模原市若年性認知症家族の会じゅりの会」事務局長の浜井秀子さんと、「渋谷区若年性認知症の会マリエ」代表の中島珠子さんが報告。

中澤さん進行による、武地さん、矢吹さんの対談では、「サロン」と「認知症カフェ」の違いや、認知症カフェの役割についても触れられ、武地さんは、「敷居が低いことは大事」だとしたうえで、「なんでもありではない。『認知症カフェ』という形、理念がきちりしていることが大事」と強調。矢吹さんは、「診断前の不安な時に、専門職につながる場所であることも役割のひとつ」とし、形やビジョンについて、「認知症に対する偏見や暮らしにくさを解決していく場所。認知症のある人や家族介護者、地域の中にある課題を解決していく方向性がビジョンになるのではないかな。目的が明確であれば、形も決まってくる」「ここに地域の人が入ることで、地域が変わっていく」と述べました。



右から矢吹さん、武地さん、中澤さん

ワークショップでは認知症カフェの活動で大切にすることをグループごとに明文化。「認知症に対する理解と共生を目的に、本人、家族、地域との交流を大切にし、皆が対等に楽しめる居場所づくりを行います」などの19の宣言が発表されました。大切にしたいこととしては、「つながり」や「一人ひとりの想い」といったキーワードが多く出されました。続いて、それを地域に広げていくためのネットワークを考えるワークショップを実施しました。内容は中澤さんによる話題提供とグループでの話し合い。中澤さんは「支えあう共生社会の一步を認知症カフェができれば」と述べました。

最後の総括を服部万里子さん（服部メディカル研究所所長）と武地さんにいただき、服部さんは「今後は活動をどのように継続させるか、ネットワークをどのように広げていくのが課題。このフォーラムで論議したことを、地域に持ち帰り、それぞれが発信していったほしい」と、参加者へエールを送り、武地さんが「認知症カフェは、認知症とともに生きていくことを可能にする役割を持っているのではないだろうか」と述べ、幕を閉じました。



また、前日の1日には、当事業団で16・17年度に実施した「ともにつくる認知症カフェ開設応援助成」の贈呈団体のうち21団体が集まり、これまでの活動の発表と、大阪ボランティア協会理事長の早瀬昇さんによるワークショップ「市民が主役のまちづくり～参加と協働、継続のための『資源』の活用」を行いました。周囲の団体に働きかける新規企画を考えるワークショップでは様々な案が出され、会場は大いに盛り上がりました。

当事業団では、認知症になっても住みなれた地域で暮らせる、そんな社会の実現へ向けた取り組みを、これからも様々な形で行っていきます。

※フォーラム「認知症カフェからの出発2020」実行委員会：江部乙まちづくりコミュニティ行動隊女子部（北海道）、鳩山ぼっぼ会（埼玉県）、うたせ認知症を考える会（千葉県）、住まい・まち研究会（千葉県）、青山1000人会（兵庫県）、ダイヤモンドクラブ（岡山県）

認知症カフェ運営講座・認知症カフェセミナー (北海道・岡山)

主催：事業団など

認知症カフェを地域資源として発展させ、認知症のある人も暮らしやすい地域づくりにつなげていけるよう、運営のポイントや今後の展開について考える講座を、認知症ケアにおける認知症カフェの重要性を提唱している武地一さんを講師に招き、全国を巡回し、地元の団体と共に開催しています。

19年度は、地域にカフェ運営者のネットワークを構築することにも注力し、4月13日に北海道滝川市の市農村環境改善センターで「認知症カフェ運営講座」を、11月2日に岡山県倉敷市の川崎医療福祉大学で「認知症カフェセミナー」を開催しました。

滝川市の講座では、地元で活躍をしている江部乙まちづくりコミュニティ行動隊女子部と市地域包括支援センターにご協力をいただき開催（滝川市後援）。北海道各地から、運営等カフェにかかわっている人、介護・医療・行政関係者ら約140人が参加しました。

武地さんの講演のほか、滝川地区認知症の人と共に歩む家族の会あけぼのの会会長の須田敏枝さんと市地域包括支援センター副所長の相澤理佳子さん、江部乙まちづくりコミュニティ行動隊女子部の横山千鶴子さんによるカフェの実践報告、ワークショップデザイナー浦山絵里さん進行のグループディスカッションなども実施しました。

倉敷市での講座は、認知症カフェネットワーク委員会（認知症の人と家族の会岡山県支部）、矢掛町の認知症カフェにじ（ダイヤモンドクラブ）との共同主催で、二部制で開催（岡山県、岡山県社会福祉協議会后援）。カフェを運営している人、行政関係者ら県内を中心にのべ450人程が参加しました。

第一部は、武地さんによる基調講演「認知症カフェを地域資源に～これから大切にしたいこと」。「認知症だけではなく、誰もが集える場所」というのは、認知症の難しさを避けている場合や、結果的に認知症の人を排除している場合がある、というメッセージは、参加者の気付きにつながった様子でした。

第二部は、カフェの運営に携わっている人を対象に、美作大学生活科学部・堀川研究室の学生（津山市）やグループホームこまくさホーム長の山下洋子さん（玉野市）、井原市社会福祉協議会の藤井利明さんが実践報告。その後、数人ずつのグループで意見交換を行うワークショップも行いました。県内のカフェ関係者が一堂に会したのは初めて。各地の取り組みから刺激を受け、地域のネットワークづくりに弾みをつける集いとなりました。



国際シンポジウム 認知症の人にやさしい街をめざして (大阪)

私たちの認知症フレンドリーコミュニティづくり

主催：事業団、朝日新聞社

認知症の人にやさしい街づくりについて、国内外の専門家が集まる国際シンポジウム「認知症の人にやさしい街をめざして」を5月18日、大阪市北区のコングレコンベンションセンターで開催しました。講師陣はイアン・シェリフさん(英国)、リズ・ヒッチンスさん(同)、オリビエ・コンスタントさん(ベルギー)、D Y・スハルヤさん(インドネシア)、柿山泰彦さん(大牟田市白川病院)、徳田雄人さん(NPO法人認知症フレンドシップクラブ理事)の6人。シンポジウムの進行役は慶応大大学院教授の堀田聡子さんが担当しました。シンポジウムは同時通訳が付き、参加者は近畿のみにとどまらず、宮城県、広島県、宮崎県など全国から自治体の高齢福祉課の担当者や介護施設の関係者ら約300人が集まりました。

基調講演ではシェリフさん、ヒッチンスさんは英国南西部のプリマス市で自分たちが関わってきた認知症フレンドリーな町づくりを説明しました。オリビエさんはベルギー・アントワープで担当している広報戦略、徳田さんは東京都町田市で認知症の当事者が中心になって進めている取り組みを話しました。

またシェリフさんが定期的に行っている世界の認知症関係者を結んだテレビ会議を再現。英国、米国、ハンガリー、マカオ、シンガポールなどから約20人が参加して、インターネットを通じてそれぞれの国の課題や現状を語りました。

シンポジウムでは「いかにして認知症フレンドリーな街づくりを加速させていくか」をテーマに講師陣全員が話し合いました。

シェリフさんはプリマス市の認知症フレンドリーな取り組みが市と一体とな行われていることや、取り組みには地元サッカークラブやバスなどの市を構成する様々なセクターが加わっていて、月に1度、関係者が集まって定期的な会合を持って進捗状況を共有していることを話しました。ヒッチンスさんはプリマス近郊の農村部の認知症フレンドリーな取り組みを紹介。

インドネシアアルツハイマー協会の会長でもあるスハルヤさんは、お母さんを血管性認知症で亡くしたことから認知症と関わるようになったエピソードを話し、アジア各国で進む認知症対策について話しました。最後にシェリフさんは、2012年ロンドン五輪の聖火ランナーを務めたエピソードを話し、「ここ大阪でも認知症フレンドリーな町づくりの火が燃え上がったことを確認しました。この火を絶やすこと無く人々につないでいきましょう!」と締めくくり、参加者から盛大な拍手が送られました。



シンポジウムで話すイアン・シェリフ氏(左から2人目)



テレビ会議で発言する各国の認知症関係者



認知症フレンドリーキッズ授業 (東京、大阪、鹿児島、石川など)

主催：事業団

認知症の正しい知識を子どもたちに伝え、認知症に対して偏見や差別をなくしてもらうための授業を2019年から始めました。認知症といっても大まかに医療や介護など、様々なテーマがありますが、キッズ授業は認知症の人がいつまでも住み慣れた町で暮らすことができる町づくりを子どもたちに考えてもらうのが目標です。19年6月に政府が決定した認知症施策推進大綱にも記されている、認知症の人と暮らす「共生」を中心に据えた内容になっています。

対象は小学校高学年の4～6年生です。授業は基本的に2時間の授業の枠を使って実施します。まずテキストを使って認知症とはどういう病気、どんな症状が出るのか。また認知症の人と接する時の注意点などを学びます。その後バーチャルリアリティを使った認知症の人が見る世界を体験できる映像を視聴します。スマートフォンとハコスコというスコープを使って、突然記憶が無くなる場面や、空間認識が欠落して階段を降りるのに苦労する場面など、約5分の映像に編集されています。

最後にグループに分かれて、これまで学んできたことをもとに「認知症の当事者の気持ち」「認知症の人を支える家族の気持ち」「地域にあったらいいと思う認知症の人にやさしいお店やサービス」を自分たちで考えて付箋に書いてポスターに貼り、発表します。

キッズ授業を終えた子どもたちには、受講記念としてピンバッジと授業の様子を撮影した写真を盛り込んだ特別号外を贈りました。

キッズ授業は基本的に朝日新聞厚生文化事業団が企画した授業内容で実施していますが、商業高校のボランティア福祉科の生徒たちや、地域の社会福祉協議会の方々、またショッピングモールなどでの実施など、様々なコラボ企画にも対応しています。

2019年度は以下の10カ所で実施しました。

喜入公民館(8月1日、鹿児島市=認知症診療を地元で行っている「きいれ浜田クリニック」の浜田努院長が夏休みの登校日に合わせて呼びかけ実施)▽市立淀商業高校(8月6日、大阪市)▽長崎県庁(11月17日=11月11日の「介護の日」に合わせて長崎県が実施した介護職についての全体的なイメージアップを図るための啓発イベントの一環として実施)▽三重県社会福祉協議会みえ介護フェア(11月17日=介護の日に合わせてイオンモール鈴鹿で実施)▽富田小学校(11月25日、大阪府高槻市)▽上戸小学校(12月3日、石川県珠洲市)▽西天満小学校(12月9日、大阪市)▽大空小学校(20年1月16日、大阪市)▽梶小学校(1月28日、大阪府守口市)▽三園小学校(2月5日、東京都板橋区)



珠洲市市立上戸小の5、6年生



VRを見る子どもたち

認知症マフワークショップ(広島・大阪)

主催：事業団

英国の病院や高齢者施設で使われている認知症マフの製作と普及を目指す、「認知症マフワークショップ」を広島市(9月28日、TKPガーデンシティPREMIUM広島駅北口)と大阪市(10月5日、朝日新聞アサコムホール)で実施しました。マフは毛糸などで編まれた筒状のニット製品です。内側にはボタンやリボンなど様々な飾りが縫い付けられていて、認知症の人が手を通してこの飾りを触ることで安心感が得られるそうです。英国ではボランティアや主婦のグループが作り貯めては地元の病院や高齢者施設にプレゼントしています。

事業団では、2017年から広島県府中町で認知症カフェを中心に活動する認知症サポートグループ「だんだん」(伊東裕子代表)や同町社会福祉協議会の協力を得てマフ作りに取り組んできました。広島、大阪でのワークショップでは「だんだん」の伊東代表が試行錯誤したマフ作りについて話し、府中町社協生活支援コーディネーターの榎山亮さんが組織作りから施設への贈呈までを話しました。

実際のマフ作りの体験は、広島ではだんだんのメンバー12人が、毛糸の輪編みで作る方法を参加者に指導。その後あらかじめ用意した半完成品のマフにアクセサリを縫い付けました。大阪のワークショップではニット作家の能勢マユミさんに参加してもらい「指編み」でマフを作りました。



大阪のワークショップで指導する能勢マユミさん

シニア世代の週末特別教室(大阪)

主催：事業団

高齢者にとって関心が高い「認知症」「運転」「体力維持」について専門家が解説、指導する特別教室を6月29日、大阪市北区のコングレコンベンションセンターで開催。日ごろアクティブな活動をこなしているシニア世代の134人が参加しました。

最初に医師の松本一生さんは、認知症の兆候や家族の対応について話しました。次に道路交通評論家の中村拓司さんが、高齢ドライバーの危険な運転が撮影された多数の動画や、豊富なデータを提示。いつまでも安全な運転を続けるコツや免許返納のタイミングについて解説しました。また参加者には講演が始まる前に30問の設問からなる「運転時認知障害発見リスト」を実施してもらい、危険な運転につながる兆候を自分自身でチェックしてもらいました。

最後は健康運動指導士の花田明子さんが、筋肉の衰えを防ぐ「貯筋運動」を実際に披露し、参加者もヨガマットの上で体験しました。



花田明子さんの指導で貯筋運動を体験する参加者



高齡者施設訪問プログラム ゆうゆうビジット (全国16カ所)

主催：事業団

日ごろ外出の機会が少ない高齢者施設の入居者や利用者らを対象に、音楽家や相撲の力士らが訪問して楽しいひと時を届ける「ゆうゆうビジット」。2019年度で10年目を迎え、これまでに約180カ所の施設を訪問しました。19年度は全国の特別養護老人ホームや介護老人保健施設など16カ所を訪問しました。プログラムの内容は、以下の通りになります。

● 川島成道

国際的なバイオリニストの川島成道さんが、ミニコンサートを3カ所で開催。川島さんは演奏曲の時代背景やエピソードを語りながら、クライスラーの「愛の喜び」など約10曲を演奏しました。

ピアニストの宮本聖子さん(6月17日、大阪市「寿里苑ラピス」、恵村友美子さん(8月5日、鳥取市「ふしの白寿苑」、佐藤勝重さん(11月8日、京都市「上桂」=写真)が共演しました。



● 高砂部屋

高砂部屋の力士、幕下の朝乃丈(あさのじょう)と朝興貴(あさこうき)らが3カ所を訪問し、四股を踏み相撲の技を披露したり職員の挑戦を受けたりしました。マネジャーで元力士の松田哲博さんによる相撲甚句の披露もあり、最後に高砂部屋特製のちゃんこ鍋が振る舞われました。

「江戸川さくらの杜」(5月27日、東京都江戸川区)、「ソフトハウス」(7月22日、三重県桑名市)、ライフケア柏原(11月25日、福岡市=写真)を訪問。3月に予定していた大阪府富田林市の大阪府障害者福祉事業団への訪問は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。



● 日色ともゑ・マリオネット

俳優の日色ともゑさんと湯浅隆さん(ポルトガルギター)と吉田剛士さん(マンドリン)による音楽ユニット「マリオネット」が2カ所を訪問しました。日色さんによる童話「白いぼうし」(あまんきみこ作)の朗読、マリオネットの2人による演奏があり、最後は全員で「ふるさと」などの童謡を合唱しました。

「特別養護老人ホーム蒲田」(9月17日、東京都大田区=写真)、「優・悠・邑 和合」(10月10日、岐阜県大垣市)で実施しました。



● 福田進一

国際的に活躍するギタリストの福田進一さんが4カ所でミニコンサートを開き、「アルハンブラの思い出」や「禁じられた遊び」などクラシックギターの名曲を中心に10曲を演奏しました。

「薔薇の樹苑」(4月11日、福岡市)、「コティコート北大阪」(8月26日、大阪市)、「レジデンス花」(10月30日、静岡市=写真)、「みさよはうす土支田」(2020年2月20日、東京都練馬区)で実施しました。



● ベルリントリオ

ベルリンに音楽留学経験のあるピアニストの宮本聖子さん、バイオリニストの宮田英恵さん、チェリストの石田聖子さんの3人で構成する「ベルリントリオ」が4カ所を訪問。モーツァルトの「トルコ行進曲」などなじみ深い曲を次々と披露しました。

「和楽園」(6月24日、奈良市)、「らぼーと」(9月23日、神戸市)、「陽だまりの丘」(12月17日、大阪狭山市=写真)、「丹陽」(20年1月30日、愛知県一宮市)で実施しました。



朝日高齢者福祉セミナー2019(名古屋)

主催：事業団、愛知高齢者福祉研究会、朝日新聞社

高齢者のための福祉や医療を考える「朝日高齢者福祉セミナー2019」を、7月7日、名古屋市中区の朝日ホールで開催し、200人が参加。「本人の望む場所で本人が望む最期を迎えるために」をテーマに、講演とシンポジウムを行いました。

講演では、岐阜大学医学部准教授の小木曾加奈子さんが、老衰死の進行過程と必要な支援を解説し、また、事例をもとに本人の望む最期を実現するための家族との準備の必要性を語りました。

シンポジウムでは、寄せられた質問をもとに、身寄りのない人の看取りのありようや介護現場での多職種連携について議論がされ、コーディネーターの山下科子さん(中部学院大学人間福祉学部講師)は、「人生の最後の形を自分で決め、生き抜くという気持ちが大切」と締めくくりました。



公益事業

CONTENTS

福祉啓発・公衆衛生

自殺予防公開講座	36
西部朝日福祉助成金	36
アサヒベビー相談室	37
第71回保健文化賞	37
遺贈・遺言セミナー	38

チャリティー事業

朝日チャリティー美術展	39
第61回各派合同三曲演奏会	40
第67回洋舞合同祭	40
第69回メサイア演奏会	41
親子で楽しむクリスマスコンサート	41
第57回チャリティー大茶会	42
杵勝会 第37回歳末チャリティー長唄演奏会	42
上野学園 第60回慈善演奏会	42
浦和学院高等学校吹奏楽部 第15回チャリティーコンサート	42



19年度自殺予防公開講座(福岡)

思いとどまってもらうために

主催：福岡いのちの電話、事業団 後援：福岡県、福岡市、九州朝日放送、朝日新聞社

20年2月23日、福岡市・都久志会館ホールで社会福祉法人福岡いのちの電話と共催で自殺予防公開講座「思いとどまってもらうために」を開催しました。講師に奈良大学教授で万葉学者の上野誠氏を迎え、「万葉集から読み解く万葉びとのこころ」と題した講演を行い、聴講者130名余りと共に自殺予防の方策につながる糸口を探りました。

上野先生は「私は文学部の教授だが、古典をもとにして『どのように生きるのか』という話ができます」と語り、イザナキノミコトらの神話から読み取れる人間の愛憎や死生観などについて講演が展開されました。

自殺者の総数は年々減少傾向にはあるものの、電話相談にあたるスタッフの実感では「相談の内容が深刻になっている」「相談の時間も長くなっている」ということです。一人でも多くの貴重な命を救えるように、この講座がその一助となれば、と願っております。



西部朝日福祉助成金(福岡)

主催：事業団

19年度「西部朝日福祉助成金」の贈呈式を3月12日、朝日新聞西部本社(北九州市小倉北区)で行い、長年、福祉活動に取り組む福岡県内3団体の代表者に助成金の目録を贈呈しました。3団体は、北九州いのちの電話(北九州市小倉北区)、福岡いのちの電話(福岡市中央区)、県交通遺児を支える会(同)で、助成金は15万円ずつです。

いのちの電話の両団体は、ボランティア相談員が年中無休の24時間体制で電話相談に応じ、諸々の事情から危機に直面し自殺を思うほど悩む相談者に対して、生きる力を取り戻すためのサポートをしています。両団体とも「相談員の高齢化と新規募集の難しさが課題。一方で、個々の電話相談の内容は以前より深刻になっている」といった報告がありました。県交通遺児を支える会の代表からは「最近、個人情報保護の観点から交通遺児になった子供の情報が得られない。我々は支援したいのに、接触できない交通遺児がいる」といった問題が報告されました。助成金には、事業団が年末年始に行った「朝日ふれあい募金」が充てられています。





アサヒベビー相談室(大阪)

主催：事業団

乳幼児の育児に悩む親のための無料相談室を設け、医師や栄養士などの専門家が、病気や発育、栄養などに関する相談を行っています。実施場所は大阪府内の二つの百貨店です。

大阪市阿倍野区のあべのハルカス近鉄本店では、1957年に全国で初めて百貨店内に無料の相談室を開設。2014年春にリニューアルオープンし、今年度も大勢の相談者にご利用いただきました。大阪市立大学医学部附属病院小児科の医師のほか、小児歯科医師、ヨガインストラクターなどさまざまな専門家が対応しており、秋のイベントでは、読み聞かせの専門家によるパネルシアターや手遊びタイム、プレママ・パパが妊娠期～子育て期の過ごし方や関わり方について助産師から学ぶ講座も開かれました。

大阪府高槻市の高槻阪急(※旧西武高槻店、1974年開設)では、大阪医科大学小児科の医師による相談のほか、社会医療法人愛仁会高槻病院の助産師からお産や離乳食などについて学ぶ講座、交流会を毎月開催しており、地元の皆さまにご利用いただいています。

今年度の各相談室の利用者数は次のとおりです。

あべのハルカス近鉄本店 878人(年間66日実施)、西武高槻店 421人(年間43日実施)

なお、新型コロナウイルスの感染予防措置として、20年3月上旬より両百貨店で相談受付および身体測定を、期間未定で休止しています。

第71回保健文化賞(東京)

主催：第一生命保険株式会社 後援：厚生労働省、事業団ほか

保健衛生の向上などに貢献した団体・個人を対象とした第71回保健文化賞の贈呈式が12月17日、東京都港区の明治記念館で行われました。10団体と個人5人の計15件に、賞状と賞金(団体各200万円、個人各100万円)と朝日新聞厚生文化事業団賞(トロフィー)などが贈られました。受賞団体・個人は以下の通り。

【団体】仙台市薬剤師会▽福島県食生活改善推進連絡協議会▽アレルギーポット(東京)▽テーブル・

フォー・ツー・インターナショナル(同)▽はとの会(石川)▽鳥取県看護協会▽益田の医療を守る市民の会(高根)▽癒し憩いネットワーク(福岡)▽熊本ダルク▽沖縄県助産師会

【個人】向山秀樹(神奈川)▽植松潤治(滋賀)▽埜田(たおだ)和史(同)▽足立光平(兵庫)▽岡本新悟(奈良) =いずれも医師



遺贈・遺言セミナー(東京・大阪)

主催：事業団

●【前期】

「老いじたく」に役立つ遺言書の書き方や、遺言に記した内容について遺言を執行する人に実現してもらうために必要な準備を学ぶセミナーとして実施しました。

今年度前期は「よい遺言を書くために知っておくこと」を、朝日新聞東京本社(5月31日、93人参加)と、大阪本社(6月8日、107人参加)で開催し、両会場とも講師は弁護士の中山二基子(ふきこ)さんが務めました。



中山さんは、多くの方が特に心配になることとして、①相続、②自分自身の死後の事務処理、③自身の判断能力が低下した時の対処という3点を挙げ、これまでに取り組んできた遺言に関する相談の事例を交えながら、それぞれについて詳細を説明しました。また、段階的に改正されている相続法の内容についてもポイントを4つに分けて解説しました。

中山さんは「遺言書があるかないかで相続の手間が大きく異なります」と遺言作成の大切さを強調。セミナー後半には、参加者からの質疑応答を行いました。

●【後期】

後期に予定していた「安心の老いじたく～あなたの大切な財産を未来につなげるために～」は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い開催を中止いたしました。



朝日チャリティー美術展(大阪、名古屋、東京)

主催：事業団、朝日新聞社

全国の芸術家や著名人から寄贈された作品を販売し、収益を社会福祉事業に充てる「朝日チャリティー美術展」を大阪、名古屋で開催し、東京展は、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、開催を延期しました。

19年度は未開催の東京展を含め、文化勲章受章者や人間国宝を含む画家、工芸家、版画家、書家、宗教家、茶道家など各界の著名人らのべ約1300人にご協力をいただき、販売作品は日本画、洋画、工芸、版画、書、色紙など約2200点に上りました。

● 大阪展

第93回となる大阪展は、12月27日から29日の3日間、大阪市中央区の高島屋大阪店催会場で開催し、ご寄贈いただいた約900点の作品を、入札と即売で販売しました。約4000人の来場があり、多くのお客様で賑わいました。また今年は運営の適正化に取り組み、会場の仕様を変更するなどしましたが、例年通り滞りなく開催することが出来ました。



● 名古屋展

第66回名古屋展は、20年2月26日から3月3日まで、前回に引き続き名古屋三越栄店で開催し約600点を販売しました。今回は会期を3日から7日、会場も催事場から常設の美術画廊、さらに販売方式も前半が落札、後半は即売と変更し、お客様により落ち着いて作品を鑑賞していただけるようにしました。

新型コロナウイルスの感染予防対策が2月末から始まり、後半は開場時間を2時間短縮しましたが、多くのお客様に来場いただき、お買い上げいただいたことを厚く感謝いたします。



● 東京展

20年4月3日から6日に松屋銀座で開催を予定していた95回目の東京展は、約700点の展示販売を準備しました。新型コロナウイルスの感染が徐々に広まる中、混雑防止のため販売方法をすべて入札にし、会期を短縮するなど、様々な感染防止策を講じましたが、3月30日に開催延期を決定し、同日に発表しました。

*5月現在、今後の開催スケジュールなどは決まっていません。

<出品作家名は、49～51ページに掲載しています>



第61回各派合同三曲演奏会(大阪)

主催：事業団

箏、三絃、尺八の各派社中が出演する演奏会が11月23日、大阪市中央区のNHK大阪ホールで開催されました。観客は約1000人。次々と奏でられる優美で華やかな和の音色に浸りました。出演社中は次の通りです(出演順、敬称略)。

須山知行・中島警子社中「君が代変奏曲」▽大阪正絃社「満月の下で」▽都山流大阪府支部「風の色」▽菊田歌雄と琴菊会「遊鹿と馬酔木」▽新都山流近畿各支部「頌和楽」▽遊琴会「ふたなしま」▽中村双葉と葉風会「民謡組曲」▽箏曲和光会・琴古流玉川社「旅情」▽菊扇弘子と寿扇会「<花・鳥・風・月>」▽菊塚千秋と日本当道会「新高砂」▽菊井松音と菊井箏楽社「石橋」▽当道友楽会「雲雀の曲」▽箏曲栄琴会「秋の言の葉」▽中扇喜会「最中の月」



第67回洋舞合同祭(大阪)

主催：事業団

12月25日から27日までの3日間、大阪市北区のフェスティバルホールで、モダンダンスとクラシックバレエの祭典「第67回洋舞合同祭」を開催しました。15団体19チーム(児童混合の部13チーム、大人の部6チーム)総勢1000人余りの出演者が日頃の成果を披露し華やかなステージで観客を魅了しました。入場者数は3日間で3671人でした。

長きに渡りご出演をいただいている次の団体に、感謝の気持ちを込めて舞台上で表彰状と記念品を贈りました。

65回出演記念表彰＝法村友井バレエ学校、60回出演記念表彰＝大阪バレエアカデミー

10回出演記念表彰＝MRB松田敏子リラクゼーションバレエ

出演団体は以下の通りです(出演順)

【25日】児童・混合の部＝大阪バレエアカデミー、法村友井バレエ学校、波多野澄子バレエ研究所、江川バレエスクール▽大人の部＝大阪バレエアカデミー、波多野澄子バレエ研究所、江川バレエスクール、法村友井ジュニアバレエ団

【26日】児童・混合の部＝野辺恵バレエスタジオ、宝塚音楽学校附属宝塚コドモアテネ、MRB松田敏子リラクゼーションバレエ、高田由紀子バレエ学園、江口乙矢・須美子・満典舞踊研究所▽大人の部＝スズキ・バレエアート・スタジオ

【27日】児童・混合の部＝本田道子バレエスクール、麻美バレエランド、ソウダバレエスクール、一般社団法人現代舞踊協会関西支部▽大人の部＝地主薫バレエ団





第69回メサイア演奏会(東京)

主催：事業団、朝日新聞社 協力：東京藝術大学 特別協賛：原田積善会

東京藝術大学の全面的な協力で上演するチャリティーコンサート「メサイア」を、12月19日、東京・上野の東京文化会館大ホールで開催しました。同大教授で京都市交響楽団常任首席指揮者の高関健さんによる指揮で、藝大フィルハーモニア管弦楽団と同大音楽学部声楽科の学生ら約160人が、観客約1900人を前に熱のこもった演奏を響かせました。

ソリストは七澤結さん(ソプラノ)、朝倉麻里亜さん(アルト)、西山詩苑さん(テノール)、西田昂平さん(バス)の皆さんが務めました。

演奏会のポスターやプログラムに使われている作品は、美術学部デザイン科准教授の押元一敏さんにご提供いただきました。



親子で楽しむクリスマスコンサート(東京)

主催：ソングブックカフェ、事業団

20回目となる「親子で楽しむクリスマスコンサート」を12月22日、有楽町朝日ホールで開催しました。

保育園や幼稚園などで人気の歌「にじ」などを作った、中川ひろたかさんらソングブックカフェメンバー全5組とピアニストの大友剛さんが出演。600人程の家族連れらが集まりました。

中川さんと大友さんによる演奏で幕を開けたコンサート。中川さんの作った歌「同じ地球の仲間」や絵本が披露されました。

その後、鈴木翼さん、ロケットくれよん、福田翔さん、gaagaaSが登場、「あそびうた」や体操など、子どもと一緒に体を動かしました。「世界中のこどもたちが」などを演奏したアンコールを含め、21種類の遊びや歌などが繰り広げられ、大盛り上がりのクリスマスとなりました。

出演は、中川ひろたかさん(シンガーソング絵本ライター)、鈴木翼さん(あそびうた作家)、ロケットくれよん(あそびうたデュオ)、福田翔さん(あそびうた作家)、gaagaaS(キッズミュージックユニット)、大友剛さん(ミュージシャン&マジシャン&翻訳家)。





第57回チャリティー大茶会(北九州)

主催：茶道裏千家淡交会北九州支部 後援：事業団など

茶道裏千家淡交会北九州支部によるチャリティー大茶会が、8月31日、9月1日に北九州市小倉北区の小倉井筒屋で開かれました。社会福祉活動を応援するため毎年開かれ、今回が57回目。大茶会には、2日間で千人以上が来場しお茶やお菓子を楽しみました。後日、収益金の一部55万7020円が当事業団に寄付されました。



杵勝会 第37回歳末チャリティー長唄演奏会(東京)

主催：一般財団法人杵勝会 後援：事業団

円熟の重鎮から新進気鋭の若手まで、幅広い層の長唄三味線演奏家を擁する「杵勝会」(東京都港区)が12月14日、恒例となっている歳末チャリティー長唄演奏会を東京・有楽町朝日ホールで開きました。歌舞伎の舞台でも活躍する花形演奏家らも出演。収益金から10万円が当事業団に寄付されました。



上野学園 第60回慈善演奏会(東京)

聖夜にひびく オルガンと合唱

主催：学校法人上野学園 後援：事業団

学校法人上野学園(東京都台東区)による慈善演奏会「聖夜にひびく オルガンと合唱」が12月23日、同所の石橋メモリアルホールで開かれました。上野学園大学の小林英之教授がパイプオルガンを演奏。またボジティブ・オルガンの伴奏で高等学校音楽科2年生と大学生の有志が賛美歌を披露しました。



浦和学院高等学校吹奏楽部 第15回チャリティーコンサート(埼玉)

主催：浦和学院高等学校吹奏楽部 後援：事業団

浦和学院高等学校(さいたま市緑区)の吹奏楽部が20年1月13日、15回目となるチャリティーコンサートをさいたま市民会館おおみやで開きました。1、2年生が演奏し、700人が会場に詰めかけました。集まった義援金のうち14万3034円を、東日本大震災の被災地のためにと朝日新聞さいたま総局を通し当事業団に寄託しました。



地域公益活動 ボッチャ体験&ちょこっと福祉相談会 (東京)

主催：中央区社会福祉法人連絡会

東京都中央区の社会福祉法人が連携し地域社会に貢献する取り組み「ボッチャ体験&ちょこっと福祉相談会」を、11月23日に東京都中央区の月島区民センターで開催しました。

3回目となる19年度の開催も、ロンドンパラリンピック日本代表・秋元妙美さんを講師にお迎えし、子どもから高齢者まで、約100人がボッチャを体験しました。



障害の有無や年齢にかかわらず、誰しもが一緒に楽しめるボッチャ。小さなお子さんをご家族と一緒に参加し、「ランプ」と呼ばれる滑り台のような勾配具を使いボールを転がしたり、車いすを利用する高齢者が参加したり、多世代の人にボッチャを楽しんでいただいた一日となりました。さまざまなテーマに専門家がこたえるちょこっと福祉相談会も同時に実施。40人程が利用しました。

当事業団のほか、中央区社会福祉協議会、シルヴァーウィング、賛育会、わとなーる、長岡福祉協会、奉優会、東京都手をつなぐ育成会、清香会、木下財団、丸紅基金などが参加し連絡会をつくり、取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う事業中止・延期

新型コロナウイルスの急激な感染拡大は事業団の活動に影響を及ぼしました。それぞれの事業について、安全な開催を実現すべく、開催方法の変更などを検討いたしました。いくつかの事業で中止・延期の判断をするに至りました。

中止・延期を決めた主な主催事業は以下のとおりです(2020年3月31現在。20年度事業を含む)

2020年

- 2月21日 遺贈・遺言セミナー(東京)
- 3月14日 遺贈・遺言セミナー(大阪)
- 3月18日 進学応援金のつどい(~19日)
- 3月21日 各流合同茶会(大阪)(~22日)
- 3月23日 ゆうゆうビジット(大阪)
- 4月上旬 朝日チャリティー美術展・東京展
- 4月中旬 復興支援コンサート(福島)
- ゆうゆうビジット(鹿児島)

※事業団では20年2月から職員の時差勤務を、3月から在宅勤務を本格化させました。

主な後援・協賛・協力事業一覧

日 程	催 事	主 催 者	会 場
-----	-----	-------	-----

◎ 東京事務所

4/3	第7回「ニューヨーク合唱フェスティバル	後援	文化芸能国際交流機構	カーネギー大ホール(米国・ニューヨーク市)
5/3、4	第24回ウォーキングフェスタ東京ツアーデーマーチ	後援	日本ウォーキング協会	都立小金井公園など多摩・武蔵野地域
5/10~12	天皇杯第47回日本車いすバスケットボール選手権大会	後援・助成	日本車いすバスケットボール連盟	武蔵野の森総合スポーツプラザ(東京都調布市)
5/12	第1回記念イベント「5月23日は難病の日	後援	日本難病・疾病団体協議会	損保会館(東京都千代田区)
5/20~22	第11回国際シニア合唱祭「ゴールデンウェーブin横浜」	特別後援	NPO法人ゴールデンウェーブ	横浜みなとみらい・大ホール
5/30~31	第35回DPI日本会議全国集会IN松山	後援・助成	DPI日本会議	松山市総合コミュニティセンター
6/9	日本リウマチ友の会第59回全国大会	後援	日本リウマチ友の会	リーガロイヤルホテル小倉(福岡県)
6/13~16	第67回全国ろうあ者大会inみやぎ	協賛	全日本ろうあ連盟	宮城県仙台市
6/14	日本聾話学校チャリティー映画会	後援	日本聾話学校	日本教育会館一ツ橋ホール(東京都千代田区)
6/23	第4回全国視覚障害者囲碁大会	協賛	日本点字図書館	リフレッシュ氷川(東京都渋谷区)
6/28・29	第68回関東聾学校陸上競技大会	後援	関東聾学校体育連盟	三ツ沢公園陸上競技場(横浜市神奈川区)
7/23~28	第34回療育音楽指導者養成研修	後援	東京ミュージック・ボランティア協会	東京都小平市ほか
7/29~31	第68回関東聾学校バレーボール大会	後援	関東聾学校体育連盟	東京武道館大武道場(東京都足立区)
8/26~28	第70回全日本少年野球大会	後援	厚生労働省ほか	別府市民球場(大分県別府市)ほか
9/12	日本点字図書館 秋のチャリティー映画会	後援	日本点字図書館	なかのZEROホール(東京都中野区)
9/14	東京光の家創立100周年記念チャリティーコンサート「愛のサウンドフェスティバル」	後援	東京光の家	ひの煉瓦ホール(日野市民会館)
9/21~22	リカバリー全国フォーラム2019	後援	地域精神保健福祉機構	帝京平成大学池袋キャンパス・本館(東京都豊島区)
9/25~27	第46回国際福祉機器展H.C.R.2019	後援	全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会	東京ビッグサイト(東京都江東区)
9/26	第49回朗読録音奉仕者感謝行事	後援	鉄道弘済会	
9/29	第6回全国高校生手話パフォーマンス甲子園	後援	手話パフォーマンス甲子園実行委員会	とりぎん文化会館梨花ホール(鳥取市)
9/29・30	第45回みんなの音楽会	後援	東京ミュージック・ボランティア協会	浴風会大ホール(東京都杉並区)
9/30	第56回東京都老人クラブ芸能大会	後援	東京都老人クラブ連合会	文京シビック大ホール(東京都文京区)
10/4~6	第44回全日本ろう社会人軟式野球大会	後援	全日本ろう社会人軟式野球連盟	平地公園野球場(愛知県東海市)ほか

日程	催事		主催者	会場
10/17	第31回国民の健康会議	協賛	全国公私病院連盟	ヤクルトホール(東京都港区)
10/20	第66回東京都聴覚障害者大会	後援	東京聴覚障害者総合支援機構	すみだトリフォニーホール(東京都墨田区)
10/25・26	きょうされん第42回全国大会inあいち	後援	きょうされん	名古屋国際会議場(名古屋市)
11/1~3	サイトワールド2019	後援	サイトワールド実行委員会	すみだ産業会館(東京都墨田区)
11/2	第40回全国歯科保健大会	後援	厚生労働省ほか	ビッグパレットふくしま(福島県郡山市)
11/2~4	第42回日本スリーデーマーチ	後援	第42回日本スリーデーマーチ 実行委員会	比企丘陵一帯(埼玉県東松山市)
11/7・8	第12回全国精神保健福祉家族大会in愛知 (みんななっと愛知大会)	後援	全国精神保健福祉会連合会、 愛知県精神障害者家族会連合会	刈谷市総合文化センターほか(愛知県刈谷市)
11/9	第16回本間一夫文化賞	後援	日本点字図書館	
11/16・17	第23回全国聴覚言語障害者福祉研究交流 集会	後援	大阪聴覚障害者福祉会	立命館大学大阪いばらきキャンパス(大阪府茨木市)
11/21	本間一夫記念 日本点字図書館チャリ ティーコンサート	後援	日本点字図書館	東京文化会館小ホール(東京都台東区)
11/21	令和元年度全国社会福祉大会	協賛	厚生労働省ほか	メルパルクホール(東京都港区)
12/2~4	第57回弘済学園 わたしたちが創る展	後援	鉄道弘済会	J R 東京駅丸の内地下南口動輪の広場内
12/12~15	第38回肢体不自由児・者の美術展/デジ タル写真展	後援 助成	日本肢体不自由児協会	東京芸術劇場(東京都豊島区)
12/13	第68回東京都社会福祉大会	協賛	東京都、東京都社会福祉協議会、 東京都共同募金会	なかのZEROホール(東京都中野区)
12/18~24	自立援助ホーム「憩いの家」資金バザー	後援	青少年と共に歩む会	日本橋高島屋(東京都中央区)
2/21	みんなネットフォーラム2020	後援	全国精神保健福祉会連合会	としま区民センター(東京都豊島区)
3/3ほか	第65回耳の日記念行事	後援	日本耳鼻咽喉科学会	全国各地

◎ 大阪事務所

4/1~5/25	2019年度「地域保健福祉研究助成」 「ボランティア活動助成」	後援	大同生命厚生事業団	大同生命大阪本社(大阪市)
4/18~20	バリアフリー2019	後援	大阪府社会福祉協議会、テレビ 大阪、テレビ大阪エクスプロ	インテックス大阪(大阪市)
5/26	第26回共生・共走リレーマラソン	後援	共生・共走マラソン実行委員会	花博記念公園鶴見緑地公園内(大阪市)
5/28	若さの栄養学 春の講演会	後援	若さの栄養学協会	大阪産業創造館6階会議室E(大阪市)
6/8	共に生きる23	後援	「共に生きるコンサート」実行委 員会	箕面市立メイプルホール大ホール(大阪府 箕面市)
6/9	第26回マインドエアロビクス	後援	マインドエアロビクス実行委員 会	大阪市長居障がい者スポーツセンター
6/15	素のままフェスタ2019	後援	豊中市・素のままフェスタ実行 委員会	豊中市立アクア文化ホール(大阪府豊中市)
6/16	第37回日本ライトハウスチャリティコン サート	後援	日本ライトハウス	ザ・シンフォニーホール(大阪市)
7/4~5	第69回近畿児童自立支援施設野球大会	後援	神戸市、近畿児童自立支援施設 協議会	あじさいスタジアム北神戸、G7スタジア ム(神戸市)
7/14~15、 20~21	令和1年度「障がい児育成教育指導者養成 講座(夏季連続講座)」	後援	子供の城協会	公文教育会館5階会議室(大阪市)

日程	催事		主催者	会場
7/20	合同求人説明会「福祉の就職総合フェア2019 in OSAKA」	後援	大阪府	インテックス大阪2号館(大阪市)
7/30~8/4	第40回「子どもたちの讃歌」展	後援	大阪府・市教育委員会、大阪特別支援教育諸学校造形教育研究会	大阪市立美術館地下展示室1・2
8/2、10/26	こころがシンドイときシリーズ⑧「発達障がい？」連続講座	後援	精神障害と社会を考える啓発の会	大阪市総合生涯学習センター、ひかりのくに(株)8階研修ホール(大阪市)
8/5~10	第36回土と水と緑の学校	後援	アジア協会アジア友の会、関西教育旅行ほか	和歌山県新宮市
8/16~18	ADIアジア太平洋地区会議における若者プロジェクトへの日本チーム派遣	助成	ADIアジア太平洋地区会議	マレーシア(クアラルンプール)
8/19~21、22~31、9/1~5	第5回全日本若手障害者リーダー育成留学“ターニングポイント@RYUGAKU”	後援	メインストリーム協会	国内研修、パキスタン、モンゴル
8/22	創立60周年記念事業、第69回施設従事者激励会	後援	大阪民間社会福祉事業従事者共済会	新歌舞伎座(大阪市)
8/23~25	吃音親子サマーキャンプ	後援	サマーキャンプ実行委員会、日本吃音臨床研究会	彦根市荒神山自然の家(滋賀県彦根市)
9/16	第60回大阪知的障がい者福祉大会	後援	大阪手をつなぐ育成会 大阪ともだちの会	グランキューブ大阪 3階イベントホール(大阪市)
9/23	第25回大阪YMCAインターナショナル・チャリティーラン2019	後援	大阪YMCA、ワイズメンズクラブ国際協会西日本区阪和部・中西部	花博記念公園鶴見緑地(けやき通り南西側)(大阪市)
10/19~20、26~27	第38回スポーツフェスタ2019大阪	後援	大阪知的障がい者スポーツ協会	ヤンマースタジアム長居(大阪市)
10/27	第47回全大阪ろうあ者文化祭	後援	大阪聴力障害者協会、大阪市聴言障害者協会	大阪市立長居身体障がい者スポーツセンター
10/27	ファインエリアフェスティバル2019	後援	ファインエリアフェスティバル実行委員会	大阪府立障がい者交流促進センター(ファインプラザ大阪)、大阪障害者職業能力開発校
11/14	第20回大阪救護施設合同文化事業	後援	大阪救護施設合同文化事業運営委員会	「太閤園」迎賓館3階ダイヤモンドホール(大阪市)
11/19	第55回肢体不自由児者を支援するチャリティーバザー	後援	大阪府肢体不自由児者父母の会連合会、八尾市肢体不自由児者父母の会	貫物公園(大阪府八尾市)
11/21	若さの栄養学 秋の講演会	後援	若さの栄養学協会	大阪産業創造館(大阪市)
11/26	令和元年度大阪府社会福祉大会	後援	大阪府社会福祉協議会	大阪国際交流センター・大ホール(大阪市)
11/30	2019年医療社会事業従事者講習会	後援	大阪医療ソーシャルワーカー協会	大阪府社会福祉会館(大阪市)
1/13	第40回みんなで作るコンサート	後援	みんなで作るコンサート実行委員会	西宮市プレラホール(兵庫県西宮市)
1/31~2/5	第39回「障がいのある子どもに学ぶ」図工展	後援	大阪市小学校教育研究会特別支援教育部、大阪市小学校特別支援教育担任者会	インクルーシブ教育推進室(大阪市)
2/14~16	2020国際親善女子車いすバスケットボール大阪大会	後援	日本車いすバスケットボール連盟、大阪市障害者福祉・スポーツ協会、大阪市	大阪市中央体育館

日程	催事		主催者	会場
2/16	安心して長期療養ができるように！難病患者の医療・福祉を考える 府民のつどい	後援	大阪府、大阪難病連、大阪難病相談支援センター	エル・おおさか606 (大阪市)
2/22～23	TEACCHコラボレーションセミナー2020	後援	TEACCHプログラム研究会	京都産業会館ホール (京都市)
2/23	認知症講演会	後援	大阪認知症研究会	千里ライフサイエンスセンター5Fライフホール (大阪府豊中市)

◎ 西部事務所

通年	西日本カラオケ連合協議会のチャリティー発表会 (年に数回予定)	後援	西日本カラオケ連合協議会	北九州市内の生涯学習センターなど
4/14、7/14、8/18	第9回全九州ろう社会人軟式野球大会	後援	全九州ろう社会人軟式野球連盟	大牟田市延命球場 (福岡県大牟田市) ほか
5/12、5/26	第57回北九州市障害者スポーツ大会	後援	北九州市、北九州市身体障害者福祉協会ほか	北九州市立本城陸上競技場ほか
5/26	第37回北九州精神障がい者家族会連合会総会及び記念講演会	後援	北九州精神障がい者家族会連合会	ウエルとばた (北九州市戸畑区)
6/5～10、6/19～24	第54回西部伝統工芸展	協力	日本工芸会ほか	福岡三越、鶴屋百貨店 (熊本市)
8/10～12	第64回在宅肢体不自由児海の療育キャンプ	共催	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡県立少年自然の家「玄海の家」(宗像市)
9/20～23	第40回脳性マヒ児のための母親研修キャンプ	後援	福岡あゆみの会	やすらぎ荘 (福岡県筑前町)
10/20	第56回福岡県ろうあ者体育大会	後援	福岡県聴覚障害者協会	福岡市市民福祉プラザほか
11/10～12/10	第67回手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡市など福岡県内主要都市
11/17	令和元年度「ひとり親家庭と寡婦のふれあいスポーツ大会」	協力	北九州市母子寡婦福祉会ほか	北九州市立浅生スポーツセンター

◎ 名古屋事務所

4月～10月	第71回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール	後援	愛知県共同募金会ほか	NHK名古屋放送局センタービル (名古屋市)
4/13～5/26	2019年度愛知県障害者スポーツ大会	後援	愛知県、愛知県社会福祉協議会	星ヶ丘ボウル (名古屋市) ほか
4/14	第39回愛知県聴覚障害者体育大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	一宮市総合体育館 (愛知県一宮市) ほか
4/24～11/21	第16回名古屋市障害者スポーツ大会	後援	名古屋市ほか	パロマ瑞穂スタジアム (名古屋市) ほか
5/7	日本色覚差別撤廃の会創立25周年記念の集い	後援	日本色覚差別撤廃の会創	朝日ホール (名古屋市)
5/30～6/1	第22回国際福祉健康産業展～ウェルフェア2019～	後援	名古屋国際見本市委員会	ポートメッセなごや (名古屋市)
6/22	第57回心身障害問題を考える集い	後援	社会福祉法人あさみどりの会	ウインクあいち (名古屋市)
7/7	第36回愛知県聴覚障害者大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	小牧勤労センター (愛知県小牧市)
7/22～8/27	第36回福祉施設絵画展	後援	名古屋市児童養護連絡協議会、名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会	セントラルパーク市民ギャラリー (名古屋市) ほか
8/10～15	第36回岐阜心理リハビリテーション療育キャンプ	後援	岐阜心理リハビリテーション部会親の会ほか	割烹民宿おおくら (岐阜県恵那市)

日程	催事		主催者	会場
8/17~22	第47回愛知心理療育キャンプ	後援	愛知心理療育親の会	蒲郡ホテル別館(愛知県蒲郡市)
8/17~23	第34回中部ブロック動作法セミナー	後援	三重県心理リハビリテーション 連合会	三重県立鈴鹿青少年センター(鈴鹿市)
9/10~ 12/10	第67回手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	愛知県肢体不自由児協会	愛知県内
10/5	生き生き長寿フェア2018	後援	愛知県社会福祉協議会ほか	愛知県あいち健康の森公園(大府市、東浦町)
10/6	第43回'19愛のフェスティバル	後援	社会福祉法人名古屋手をつなぐ 育成会	名古屋手をつなぐ育成会福祉会館(名古屋市)
10/6	第47回医療講演会	後援	三重県重症心身障害児(者)を守る 会	済生会明和病院パレスホール(三重県明和町)
10/30	第67回愛知県社会福祉大会	後援	愛知県社会福祉協議会ほか	愛知県国際展示場(常滑市)
11/17	第64回名古屋市身体障害者福祉大会	後援	名古屋市身体障害者福祉連合会	名古屋市中区役所ホール
11/23	脳外傷リハビリテーション講習会	後援	同講習会実行委員会	名古屋市中区役所ホール
12/8	第59回愛知県身体障害者福祉大会	後援	愛知県身体障害者福祉団体連合 会	碧南市文化会館(愛知県碧南市)
2/4~6	第54回名古屋市障害者作品展示会	後援	名古屋市身体障害者福祉連合会	名古屋市博物館
3/1	第38回耳の日記念聴覚障害者と県民の集い	後援	愛知県聴覚障害者協会	蒲郡市民会館(愛知県蒲郡市)



チャリティー美術展に出展いただいた皆さま

◎ 日本画

秋本幸一、阿部穰、荒井孝、石踊紘一、石踊達哉、泉東臣、伊勢巧、市川保道、稲田峻、井上耐子、猪熊佳子、今井武久、岩波昭彦、鶴飼千佐子、臼井治、内田広己、梅原幸雄、梅村愛、江川照美、蝦名芳枝、大竹紫水、大月紅石、大矢亮、大矢時保、大矢十四彦、大矢紀、大矢眞弓、岡信孝、小川国重起、小川佳浩、小倉理山、小田野尚之、落合初美、春日あけみ、勝田幸男、加藤美恵子、鎌田紀子、上村俊明、神谷菜穂、亀山玲子、川合和子、川崎マリ子、川島睦郎、川嶋渉、川本淑子、神林久子、岸野圭作、北田克己、木村英史、霧筆畏無、金原保則、久芳道信、久保嶺爾、倉島重友、倉田富美、栗原幸彦、黒光茂明、小泉智英、香野ルミ子、小島光径、後藤順一、小林済、小林六博、近藤守、斉藤和、斎藤宗、坂井昇、桜井敬史、佐々木経二、笹本正明、佐治満澄、佐藤晨、椎名保、重岡良子、品川成明、芝康弘、島次逸郎、清水信行、下島洋貫、下田義寛、鈴木紀和子、鈴木至夫、須藤和之、関谷理、千住博、五月女佳織、高橋新三郎、高橋浩規、武市齐孝、田島奈須美、辰巳寛、伊達良、谷井恵紅、谷口蕙香、玉井伸弥、田村仁美、月居和子、辻村和美、角田範子、道家珍彦、遠山幸男、戸田みどり、鳥山武弘、中島潔、中島千波、中嶋虎威、中庭隆晴、中村宗弘、名古屋剛志、那波多目功一、仁木寿美子、西野陽一、西村勝廣、西村光人、西山英子、野地美樹子、野原真澄、長谷川郁子、長谷川雅也、長谷川喜久、秦誠、浜上俊和、浜田泰介、林真、林美枝子、日置宏輔、平岩洋彦、平岡良、平尾秀明、福井江太郎、福本達雄、福本百恵、藤井康夫、藤原祐寛、二川和之、紅山幸水、堀川えい子、前島恵里乃、牧進、間瀬静江、松生歩、松木秋佳、松下明生、松本高明、三上俊樹、三沢英伍、水江東穹、水谷勝子、水野收、三谷青子、三宅和光、宮本脩子、宮本和胡、三輪晃久、村田晴彦、谷中武彦、柳績、柳沢正人、山口溪華、山口義明、山本しず子、山本真一、山本真也、渡辺章雄、亘征子

◎ 洋画

青木今陽、麻田博子、浅村理江、遊馬賢一、阿野義久、あべとしゆき、阿部晴美、安部英夫、荒井孝、安藤公一、飯島二郎、池田清明、池田洋子、石川世始子、石阪春生、石田聖子、居島春生、板垣千鶴子、板倉美智子、井手典子、伊藤清和、伊藤五郎、伊藤純子、伊藤文男、井藤雅博、伊藤康夫、稲垣考二、稲垣龍雄、井上慎介、井上利哉、井上よう子、井口由多可、今井喬裕、今関アキラコ、今村价男、入江観、岩崎雄造、上田真澄、上野憲一、宇田喜久子、宇野孝之、宇野義行、梅村徹、榎本多恵子、王前一馬、大石つね子、大川浩市、大島幸夫、大津英敏、大西生余子、大淵繁樹、大見伸、大森祥吾、大森良三、緒方洪章、岡義実、小川幸紅、小川満章、小川リエ、尾崎功、納健、小澤一正、小沢眞弓、小田島えい子、織田義郎、乙丸哲延、小野仁良、加古千恵子、笠井誠一、梶浦寿布、計盛健次、片山弘明、加藤照、金丸悠児、壁下孝、嘉見敏明、川井一義、菊地正男、菊地洋二、喜澤のり子、岸田淳平、岸田夏子、岸野昭、木谷利江、北見隆、橘田政明、木寺淳二、鬼頭恭子、木下實之、木村優博、木脇康一、草野直己、久住敏之、久世瑠璃、久野和洋、久保輝秋、倉持正、黒木郁朝、黒木トシ子、黒木雅彦、黒田勝、桑島春彦、小泉元生、小泉守邦、河本和子、五島まさを、小林千枝、小林英且、小山オサム、斎藤千川子、斎藤由比、酒井章帆、酒井英利、坂本泰漣、櫻井孝美、桜井陽彦、櫻井幸雄、佐光亜紀子、佐崎紘一、佐藤泰生、佐藤義光、四方道夫、七里和子、芝芳雄、島田安雄、嶋津俊則、島村信之、清水亟憊、清水鉄彌、杉本澄男、鈴木延雄、瀬尾一嘉、園山幹生、大門正忠、高梨芳実、滝沢直次、瀧下和之、竹内喜久江、竹下功、竹原邦樹、楯岡和子、田中仁士、谷川泰宏、谷本暁雄、中條健史、塚田清、津田勝利、鶴山好一、出口修、戸狩公久、富田伸介、永井夏夕、長尾浩一、長澤すみ江、中嶋美瑛子、中田順、中西良招、中野治朗、中野洋一、中村英、中村輝行、中村實、中吉照雄、那須ゆいか、生井京子、名

和智明、西田藤三郎、西村壽郎、西山徹、丹羽直子、沼尾雅代、ノブ・サチ、野村亜紀子、ノムラカツキ、乃村豊和、長谷岩友、濱田進、原田たかし、半澤満、深津静男、福岡幸子、福岡通男、藤本正男、藤森悠二、藤原秀一、布施久美子、ブライアン・ウィリアムズ、別府忠雄、帆足ゆり、保ヶ渕静彦、堀尾一郎、堀博喜、本間千恵子、前川雅幸、榎利光、牧野美代子、正木茂、柎木高、増本憲樹、松浦正博、松浦安弘、松沢茂雄、三浦敏和、三木義尚、三塩清巳、源尊磨、三柎明子、宮田翁輔、宮平勉、宮本裕之、宮山博司、村井洋子、村岡顕美、村田伊佐夫、村田知子、村山容子、森田幸宏、森文男、森本計一、安井啓二、安富信也、柳田晃良、藪崎昭、藪野健、山口静治、山口ひろみ、山口美佐子、山下恒子、山下毅、山下徹、山田精一、山田嘉彦、山手正彦、山本亞稀、山本悦子、山本文彦、横井三郎、横山了平、吉岡耕二、吉田清光、吉田淳一、吉村美令由、わたせせいぞう、渡部香

◎ 工 芸

青木九仁博、粟生屋東洗、青山双溪、浅蔵五十吉、浅原千代治、東正之、安達雅一、新歛嗣、雨宮弥太郎、荒井さつき、有生礼子、有本空玄、安藤栄子、安藤工、安藤則義、安藤日出武、井尾建二、石川満、石田征希、石山静男、伊豆蔵幸治、伊勢崎淳、伊勢崎創、市川博一、市川正美、市野勝磯、市野元和、市野哲次、市野正大、市野勝、糸井康博、伊藤敦子、伊藤雄志、伊藤渡、井上萬二、井上康德、井上楊彩、今泉今右衛門、今井政之、伊村徳子、岩瀬健一、上田哲也、内野薫、内野都、内村由紀、内山政義、永樂善五郎、大角裕二、大上巧、大河内泰弘、大川正洋、大塩玉泉、大塩昭山、大城一夫、大須賀選、大谷昌弘、太田貢、大槻昌子、大野昭和齋、大樋勘兵衛、大樋朔芳、大樋長左衛門、大湾美枝子、小形こず恵、岡田親彦、岡田泰、岡田裕、岡本篤、小川真之助、小川長楽、奥山峰石、小倉健、小椋範彦、桶谷洋、小畑裕司、角谷英明、隠崎隆一、加古若菜、鹿島和生、春日井範之、片山雅博、勝田文博、加藤溪山、加藤孝造、加藤幸兵衛、加藤春定、加藤眞也、加藤唐三郎、加藤土代久、加藤真雪、加藤陽児、加藤亮太郎、金子信彦、金重晃介、金重潤平、樺澤健治、鎌田幸二、亀井勝、河井敏孝、河上恭一郎、川上力三、川北浩彦、川北良造、川手敏雄、川端近左、川端文男、神崎継春、神崎正英、北大路泰嗣、北口夢石、北村和義、吉向猿齋、絹谷幸太、木村展之、木村盛伸、木村盛康、九世吉向松月、清水六兵衛、久野勝生、黒岩達大、黒川和江、黒木国昭、黒田正玄、鯉江廣、小島憲二、小嶋太郎、小峠葛芳、小西陶蔵、小西朋子、小橋川太郎、小林一富美、小林哲也、小林浩、小林貢、小南吉彦、小森邦衛、小谷内和央、小柳種圃、西念秋生、佐伯健剛、酒井田柿右衛門、坂井教人、酒井博司、榊原勇一、阪口浩史、坂手春美、佐々木省庵、佐竹一夫、佐藤和彦、佐藤巧、佐藤二三子、佐藤泰子、佐藤亮、寒川栖豊、寒川義崇、柴岡信義、柴田雅章、島田文雄、清水一二、清水剛、清水千代市、志村ふくみ、志村洋子、祝嶺恭子、晶阿弥博子、庄村健、白武初芳、白幡明、城間栄順、新谷一郎、杉本貞光、杉山ひとみ、鈴木藏、鈴木五郎、鈴木三成、鈴木爽司、鈴木大三郎、鈴木富雄、砂田正博、諏訪蘇山、関守高、瀬津純司、曾我阿嬉子、高岡久美子、高橋直樹、高橋楽斎、高見勝代、武石和春、竹内真吾、武村豊徳、田中忍、田中清山、田中悠子、谷口正典、谷野明夫、谷本洋、田原陶兵衛、力石俊二、沈壽官、塚本治彦、塚本満、辻聡彦、辻常陸、土谷道仙、土田半四郎、土屋典康、筒井修、都築青峰、恒岡光興、鶴岡さゆり、鶴田明子、天坊昌彦、徳川浩、徳田八十吉、豊場惺也、中里太郎右衛門(十四代)、中里壽、中嶋虎男、中島保美、永末修策、中田一於、仲田錦玉、長野恵之輔、名倉鳳山、新里明士、西浦武、西尾武人、西川勝、西川實、西功一、西田眞也、西端正、西端春奈、西村松逸(優)、納富晋、野嶋峰男、野田東山、箱瀬淳一、迫二郎、橋爪靖雄、蓮善隆、波多野善蔵、波多野英生、羽田登、羽石修二、馬場弘吉、羽原一晃、林慶六、林正太郎、林美佳里、原清、原田拾六、ピーター・ハーモン、東田茂正、平野由佳、廣澤益次郎、広沢葉子、深石美穂、福井由美、福島善三、福田参平、藤岡香奈子、藤田潤、藤平寧、藤村州二、藤本智弘、古堅幸雄、古瀬堯三、古田好孝、古谷徹、帆足まおり、星野友幸、堀田博門、堀川十喜、堀俊郎、堀野証嗣、本多亜弥、前田泰昭、味舌隆司、眞清水藏六、増村紀一郎、松井康陽、松嶋弘、松村仁団望、松本勝哉、松本達弥、松本良夫、馬淵弘幸、三木表悦、三ツ井詠

一、宮川香齋、宮川弘尚、三宅織部、宮田亮平、宮本直樹、美和隆治、向山文也、牟田陽日、村瀬玄之、村田肇一、村山明、モーガン・ルイス、百田暁生、森一蔵、森一洋、森勝資、森克徳、森本英助、森泰司、屋我平尋、柳河瀬しのぶ、山内一生、山口堅造、山口みちよ、山田孝三、山田進二、山田みどり、山田義明、山近泰、山出勝治、大和努、大和保男、大和祐二、山中辰次、山本拓男、山本雄一、山本竜一、横山尚人、吉田宏信、吉田美統、吉田幸央、吉富文代、吉本正、米田和、米田萬太郎、若尾経、脇田宗孝、湧田弘、渡邊松華(礼而)、渡辺琢哉、和田一人

◎ 書

綾村捷子、新井光風、飯高和子、池田桂鳳、石飛博光、榎倉香邨、尾崎蒼石、尾崎邑鵬、加賀山香尚、榎本桑牛、角元正燦、金澤翔子、杭迫柏樹、後藤汀鶯、師村妙石、高木厚人、高木聖雨、竹中青琥、田中光穂、樽本樹邨、中村伸夫、星弘道、真神巍堂、吉川美恵子

◎ 版画

安東菜々、池上壮豊、尾崎斎晃、河内成幸、國安珣琥、サイトウ良、塩田みはる、高部多恵子、辻憲、中林忠良、野田哲也、乗兼広人、星野美智子、山本桂右、吉田賢治、渡会純价

◎ 著名人

藍弥生、浅野ひさよ、有馬頼底、井筒啓之、伊藤秀男、上野道善、上村貞郎、宇野亞喜良、蛭原あきら、王貞治、香川元太郎、片山治之、かわぐちかいじ、きたざわけんじ、北見けんいち、きむらゆういち、清原なつ、小林太玄、酒井駒子、狭川宗玄、佐々木啓子、佐藤邦雄、三遊亭円楽、三遊亭小遊三、下瀬翠、千玄室、第十四代家元千宗左、千宗室、千宗守、ソリマチアキラ、高田明浦、多川俊映、田島征三、谷川浩司、ちばてつや、趙治勲、辻和雲、唐仁原教久、永井ひろし、中原誠、成瀬國晴、野村俊夫、萩尾望都、長谷川大眞、長谷川義史、羽生善治、はまのゆか、林家たい平、ヒサクニヒコ、日野西光尊、弘兼憲史、古川タク、堀江恭子、前田昌道、増本大二郎、松長剛山、マツモトヨーコ、松本零士、美樹本晴彦、水戸岡鋭治、三好貴子、村上康成、森清範、やくみつる、八代亜紀、安彦良和、山口哲司、山口はるみ、山口マサル、やよいとしん、吉田桂子

* 敬称略

* 東京展への出品予定者を含みます



ご寄付をいただいた皆さま

2019年度に全国の皆さまから当事業団に寄せられたご寄付は、総額3億5812万4497円にのぼりました(当事業団の実施する東日本大震災救援事業への寄付を含む)。当事業団の活動に賛同して下さる皆さまをはじめ、朝日新聞読者、企業、団体、グループ、学校など、多くの方々が私どもを寄託先として選んでくださいました。また、古書を活用した募金にも多数の方々にご協力をいただきました。ご寄付いただいた皆さまに厚く御礼申し上げます。

お寄せいただいた温かいお志は、この事業報告で紹介しているさまざまな福祉事業に充てております。今後ともご支援、ご協力をくださいますよう、お願い申し上げます。

ご寄付いただいた皆さまは次の通りです(敬称略、順不同)。

※掲載スペースに限りがあるため、匿名を希望されている方、並びに東日本大震災救援事業へご寄付いただいた方のお名前は省かせていただきました。

- ▼北海道：赤江瑤子、石川義昭、伊藤美智子、大谷隆夫、川端暢文、北間初子、桜井内科・胃腸内科、佐藤晃子、佐藤正顕、清水美智子、東海林勝子、鈴木真知子、弦巻陽子、土井正幸、発寒中央病院、藤田晃三、藤本照雄、淵沢茂子、本多彦雄、松川悠乃
- ▼青森県：石坂美也男、加藤典子、清野俊晃、名取光広
- ▼岩手県：飯島医院、石川洋子、石田裕子、岩手県朝日会、小川浩彦、梶谷裕子、金子新聞販売、小金森勝治、杉山幸雄、筑後好江
- ▼宮城県：安達友紀子、佐藤庸太郎、渋谷彰子、菅原裕子、鈴木慎二、東北福祉大学岡田ゼミナールOB会、日野克美、藤岡卓、松川勝
- ▼秋田県：あさ大館中央、飯塚春美、曹洞宗大盛山円通寺、高橋正喜、高橋凌風・信夫、田口伊都子、鶴田貢、橋本真理子、藤本正孝
- ▼山形県：佐伯文、須藤智恵子、本庄航也・本庄兼也、本間テツ子、松谷ミドリ
- ▼福島県：安部宮子、金沢壮一、佐藤節男、馬場吉一、樋口勇、星熊雄、三森タイ子
- ▼茨城県：相川俊明、秋山侃、飯竹一広、内山桂子、大村三樹男、川島房宣、川野辺薫、川村栄一、河原なつ子、河原愈、工藤義亮、小久保憲宏、小林栄喜、根本龍司、嵯峨井勝、さくら企画、佐藤忠夫、佐藤英雄・知賀子、佐藤正喜、柴田多恵子、相馬仁禄、大部克美、武田忠哉、辻久茂、寺門南、寺沢真由美・薫子、鳥海省吾、中沢敏子先生の米寿を祝う合唱コンサート実行委員会、西村さち子、広瀬英貴、藤田正三
- ▼栃木県：荒井俊邦、新井正男、磯正一、鎌田正信、川田玲子、木村克二、早乙女絃一、塩野谷信夫、雫陽子、大宮司和照、手塚正志、林良郎、御幸町商店会、矢野正義・みゆき
- ▼群馬県：伊藤恵美、ASA前橋南橋、荻原達夫、小林暁美、柴田幹雄、清水昭夫、清水明真、静雅彦、田口美晴、永島勇、原沢ヒロ子、矢作正夫、山丸幸子
- ▼埼玉県：青木克美、赤野整骨院、安部真平、荒井健次郎、飯塚まゆみ、五十嵐公輝、池田久美子、石川栄・ニッ森達也、石川潤、石川房子、石村てる江、伊藤香世子、伊藤昭三、伊東亮太郎、稲葉陽夫、猪俣俊晴、今井妙子、今井輝男、岩田文子、ウィーンフィルチャリティーコンサート埼玉西部朝日会、上杉清秀、潮登久子、臼井朗、内田興作、内山豊美、梅津美喜代、ASAふじみ野NT、遠藤正義、大木まち子、大久保潔、大崎洋司・セツ子、大島辰幸、太田泰雄、太田吉泰、大場久子、岡崎弘子、岡嶋弘子、岡野泰子、落合眼科医院、鏡勝弘、笠原政二、勝田耕造、加藤秀夫、



加藤央子、加藤正明、金田守弘、上岡悦子、神谷里子、川口市盛人大学国際コース、川瀬義一、河原孝夫、菊地七郎、木村義熙、久喜東中学校吹奏楽部、久保田敏、小泉信、小金沢憲男、小林幸子、小谷野重雄、近藤俊子、埼京眼科学術集会、埼玉県合唱連盟、埼玉県版画家協会、斎藤淑子、酒井国雄、坂戸音楽連盟チャリティーコンサート、坂戸西高校メイキング部、坂本哲也、佐々木大介、佐藤祐子、狭山市・75歳・男性、沢崎教子、沢崎康子、沢田雅夫、執行覚、柴田真樹、白鳥正司、須賀弘、須賀正男、菅征二郎、杉沢忠、鈴木道明、鈴木忠、関口きみ江、関口行雄、関根武、関根広、高島智子、高橋治男、高橋正和、高橋光代、高橋保邦、高橋英二、田嶋なみ、辻徹哉、土屋栄子、土屋繁子、寺田英行、東海道歩きニックキ会有志、陶芸教室「トモ&ミキ」、富原繁則・利江、内藤哲、長尾薫、長沢健次、中嶋恵美子、永瀬昭平、長野陽次、中村ムツ子、名越啓史、奈良昭夫、西野優子、西森幸雄、野口早苗、野村栄子、橋本喜久雄、羽鳥貞、羽石史生、馬場幸子、馬場常正、早川悦夫、林田旭、引間正・弥恵子、久嶋圭子、平野勝代、深井勝己、藤高誠一郎・小葉莉、古郡嶽雄、古谷信雄、細谷和子、本間達志、前野澄子、マエノスミコ、松井政江、松崎賢治、松沢志津恵、水野三秋、宮本正、麦島正俊、村田みき子、目崎上、茂木克己、森田加寿代・航、八重樫信之、焼肉韓菜和っ黒、山田雄三、湯浅貞則、湯田明美、湯本寛、米元直幸、理事長小室保尚、和田喜久夫、渡辺茂樹

▼千葉県：11/22ASAハートフルライブ2019、天野昌紀、飯田勝子、生田裕人、池田守、石井従道、石井紀郎、石田博道、市橋鶴男、井原正昭、今裕之、今井静子、内田俊介、宇都宮利善、ASA行徳、ASA津田沼南部、ASAユーカリが丘、NPO法人ナルク船橋、榎本殖利、大土勢子、大野容子、大原園枝、大宅覚、岡部匡克、小河原輝子、小野晃、角田邦子、梶原敬、糟谷みつ子、門脇幸親、金杉台街づくり委員会、川島正治、河瀬斌、河田留美子、川原洋子、岸栄輔、清古高志・裕子・依子、小泉孝一、小泉惇子、甲田嘉一、小阪裕二、小島洋子、小林一博、小宮山良男、小山歌二、近藤洋一郎、斎藤和子、斎藤たかし、斉藤吉雄、佐々木信代、佐々木光明、佐々木俊久、佐藤英雄、佐藤正年、椎橋弓、渋谷晃一、嶋田比呂美、下野千晴、新庄北高校東京、杉谷道子、鈴木敬子、大慈弥豊子、高橋巖、高橋清、高橋照美、高橋勝、田口正治、田口泰子、武政武、田中光行、田中良治、津田四郎、富田恵子、内藤たぬ・ビス、中島啓典、名取孝子、能代良司、蜂谷佳子、服部恒明・貴志江、東葛座禅クラブ、人見幸雄・良、雛形明美、平野定男、広瀬和市郎、広瀬忠正、広田栄次郎、福地美津子、藤田陽子、藤野紀美子、藤原ゆり子、古川喜一郎、古橋富士雄、星野博、堀内国義、堀口宏、松崎千枝、松戸いずみ幼稚園、松野久枝、松本謙明、三上蒼生子、三石昭、宮下忠司、宮本民雄、武藤弘、村関秀男、茂木和子、森下昇、森野洋子、谷亀さち子、安田昭次郎、柳晴宣、山形まち子、山田和雄・恭子、横田雄峯・千代子、吉田和男、吉野春雄、芳野宏、和田弘子、渡辺正夫

▼東京都：会田富士恵、青木恒男、青木伸夫・洋子、青木紀子、青木房江、青柳直二、青柳正夫・美智子、青山勇、秋田啓臣、阿古慎一郎、浅井猛彦、浅賀登志子、浅田成子、朝日新聞北澤豪ファミリーサッカースクール、朝日新聞東京本社販売局、朝日トップス(株)社員会、朝比奈慶子、アサヒメディア、我妻多賀子、中川津喜子、足立嘉子、阿部はるみ、鮎川泰夫・陽子、荒井康博、新木功久、有田茂登子、飯島護明、飯島やよい、飯塚ミチ、五十嵐信日子、五十嵐ふじ枝、五十嵐正巳、池亀頼江、池田信三、池辺史生、石井祝子、石井國昭、石井せつ子、石井寛、石川儀市郎、石川俊幸、石川美根子、石川義博、石川医院、石堂文子、石名田洋一、石母田京子、磯貝博司、磯野誠子、市川卓加子、市川政雄、市川泰子、伊東綾子・三沢美奈、伊東誠一、伊藤玲子、稲垣範子、井上通子、井上苑子、猪忠彦、今井康雄、岩上貞子、岩崎明生、岩沢君子、岩田喜代治、岩野ダンスクラブ、岩渕洋子、上西美智子、上野裕子、上原博、宇佐見清・勝美、白井公子、内山昌玄、宇

都野さきゑ、梅沢正樹、梅本益雄、A S A板橋加賀十条、A S A調布西部、A S A三鷹東部、A S A府中西部、江木正子、N P O法人レッド、榎本明江、榎本淳子、遠藤イヨ、遠藤フジコ・マリコ、遠藤朝彦、及川敬二郎・了子、大木静江、大久保圭子、大越啓次、大島功、太田晤康、太田賢孝、太田美根子、大竹茂仁、大竹太上・大竹信子、大塚真之、大塚隆、大沼正博、大羽富美子、小笠原照子、岡田悦子、岡田和義、岡田小百合、岡田肇、岡部隆、岡山和男、小川達郎、奥山梅子、小倉真寿雄、小野和子、小野裕子、小野塚厚子、小野寺玲子、角田邦明、笠原英一、加地美美子、加島光浩、春日直也、片岡史郎、勝田洋子、加藤昭、加藤徹郎、加藤伸枝、加藤久明・貞子、加藤幸雄、金井邦夫、金丸昊一・祐子、金子融和、金田安弘、加能陽子、鎌田昭次、釜野徳明、神鳥芳男、狩野葉子、河井迪男・静子、川崎俊子、川島成子、川端章一、河部寛美、観世貴美江、神田篤身、神部順子、規矩智信也、菊池満美、菊谷都代子、岸修、岸本晃一、杵勝会・歳末チャリティー長唄演奏会の収益、木村文治、木村光子、久我秀雄、久保親智、熊倉学司・伸代、蔵方宏昌、倉持泰雄、栗城理一、栗田房穂・敦子、黒沢良子、黒須誠、河野哲夫・弘子、鴻巣ヒサ子、小勝竹雄、古寺貞夫、小関裕子、巨勢典子、小平三郎、小谷泰弘、後藤紘宇、小林依双男、小林一雄・育枝、小林建次、小林宏、小林美智代、小林光江、小林光子、小林雄太、小松信子、小峰真紀子、古明地幸勇、菰田稔夫、菰田由美子、小山喜吉・栄美子・恵子、小山善生、昆ミワ、近藤正毅、近藤みつ子、今野丹子、斎藤勝子、斎藤喜美子、齊藤真知子、齊藤洋子、坂井昭七、坂井則幸、境義弘・静子、境井敬昌、坂口智恵子、桜井ソノ、桜田潤、佐古浩敏、佐竹芳浩、佐藤一郎、佐藤和子、佐藤さぬ江、佐藤久美子、サトウクミコ、佐藤実、佐藤時昭、佐藤晴男、佐藤裕久、佐藤正子、沢田稔子、J X T Gエネルギー労働組合東京支部、塩田邦子、重本珊志郎、志田瑛子、実践家政科会、柴田八重子、芝原克己、Jibe、島崎芳巳、島田晶好、清水勝・厚子、清水克彦、清水太一、清水久子、清水洋・美知子、清水勇一、志村恵里、霜田和子、下田柳祥、小豆島明、白石スミ子、新生企画、杉野裕子、須子和之、鈴木正義、鈴木敏行、鈴木誠、鈴木美代子、鈴木ユリ子、鈴木洋子、鈴木礼吉、須田明子、須藤サチ子、須藤二三義、聖学院幼稚園、関佳子、関口実、関根武彦、専修クリエイト、千田寿幸、そば処福助有志の会、第67回洋舞合同祭会場募金、第1期朝日洋上大学50周年記念同窓会代表四方繁利、大部智洋、高島裕子、高岡信男、高谷進、高梨輝雄、高橋幸夫、高橋勢津子、高橋正悦、高橋宣子、高橋正治、高山義夫、田岸啓司、滝戸和子、田口澄子、田口真義、武井靖子、武居ユキ子、竹中勇、田代田鶴子、巽一郎・美紀、田中修、田中喜久子、田中繁晴、田中新一、田部美智子、玉蟲裕子、田村宏子、田村雄二、千葉会、珍田孜、佃中学校、土田豊・あつ子、土屋三郎、土屋雅幹、土屋翠子、都筑滋、鶴来一克、手島要、寺田真文、都甲雄介、富村憲一、友久英孝・美知子、豊田美佐、内藤斉、永井正一、中川隆生、長沢淳、中沢隆太、中庄谷康弘、中塚義春、中村斐子、中山正子、成田匂子、成尾郁子、新美公祥・有美子、西秀子、西弘子、西野皓三、日朝秀宜、沼沢良樹、野上新五、野崎誠、野村紀子、野本好子・登、賣間登志子、橋本圭子、長谷部信也、畑中光子、浜田隆、林貞次郎、林田和泉、早野透、早野冬木、原嶋美雪、原田ミドリ、萬代貢一、板東ミサ、東村貴美、日上操、樋口静子、樋口経雄、日比野みち子、百純久、平川恒久、平田多恵子、平沼秀男・里枝子、廣川悦子、広瀬元、広瀬祐三、広田雄一・幸江、樋脇隆雄、深津修、福井正行、福岡紀子、福室典夫、福山好子、藤川雅彦、藤田恵子、藤田美江、伏見論、二見慶子、ぶらぼーマックス、古川洋一、平方浩一・智香子、細井千津子、堀さちこ、堀上禮子、堀水美津子、本田渡、本間明生、前川信朝、真貝緋奈子、真嶋信子、増田勝弘、町田和美、町田直子、松井功、松井奈美子、松村敦子、松本シロー・愛子、松本庸夫、三上義一、水上篤・よし美、水越次男、宮崎俊一・万里、宮崎澄子、宮沢明、宮沢美子、宮田誠志、宮本美作子、武藤三喜子、村上直子、村野富貴子、室津つね、舞木亮三、望月紘一、望月蘭

子、元川フミ、元嶋良通、森昭徳、守谷俊夫、森山邦代、両角晃一、矢島伸治、八杉俊夫・朝子、安田裕、矢田静恵、柳春子、矢野運・信子、矢萩隆一、藪崎光子、山縣良之助、山岸由美子、山口紀夫・由美子、山口八千代、山崎慎一郎、山崎敏光、山崎英彦、山田千代子、山田正子、山田美江、山田孝枝、山村隆雄、山本晴美、行永小枝子、吉沢忠一、吉田幸子、吉田淑枝、吉田正彦、吉田道子、吉田義也、吉原幸一郎、吉村千枝、米川斉、楽天地オアシス、了道猛・道子、和角勉、涌島俊計、和田勢津子、和田裕久、渡邊伎美、渡辺正一、渡辺雅昭、渡辺康子、渡辺潔、渡部剛大、渡部睦子

▼神奈川県：愛甲雅子、相州観光、赤津正美、浅木信一郎、網代和枝、東野省司、朝生重幸、阿部茂行、阿部秀雄、阿部佳子、天野節子、彩歩の会、荒木典子、安藤延夫、石井貴浩、石井輝男、磯野文明、伊藤友則、伊藤正孝、伊藤道子、井上かつ江、井上祥倫、今井孝一、今井美代子、今村準三、岩田俊行、岩田文子、上杉寿美子、植村義夫、内海伸子、内田四郎、内田忠義・ユキ子、宇都宮健一、海辺恵美子、浦野孝子、ASA大船西部、ASA大船中央、ASA相模大野西部、ASA相模原みなみ、ASA鶴が台・寒川メンバーズ倶楽部、ASA藤沢中央、NPO法人ゴールデンウェーブ、m.m、遠藤ゆきと歌仲間、大川治衛、大川雅子、大島直子、大関タカ、太田彝、大滝良雄、大貫賢治、大野圭子、大橋幸二、大平千枝子、大矢征、大矢妙子、大山行徳、岡部義雄、岡村貞子、沖俊作、尾崎昭雄、尾崎正直、長内裕子、小沢英雄、小田誠一郎、小野蕙子、小野礼子、角田聖美、柏尾恭彦、鹿嶋輝子、鹿嶋登美子、春日広之助、加瀬峰知子、片桐清子、片山佐和子、加藤清二郎・富子、金子才一郎、金子正久、鎌田みね子、上條洋子、神永陽一郎、神谷正雄、川島富佐恵、菅野伸吾、菅野喜和、菊池武、菊池知子、菊地庸子、北原茂夫、北村馨、君和田正夫、木村勇夫、木村晴信、桐木正子、草苺誠蔵、倉田健一・絵津子、栗田敏郎、古宇田伸子、小清水美範、小杉町子、コスモテック、後藤四十男・明子、小林清重、小林繁、小林清吉、小林敏彦、小宮玲子、小室真、小柳節子、今野博、斉藤経広、斉藤清、斎藤俊作・美知子、斎藤隆、斎藤守弘、酒井峰男、酒井美代子、坂井田実、坂田広愛、作間和幸、桜井祐二、佐藤栄子、佐藤順二、佐藤忠次、佐藤智恵子、佐藤碧士・正史・美奈子・恒久、沢田君代、三和看護婦家政婦紹介所、椎野朋保、塩崎隆彦、島和子、島崎稔江、島巡陽一、清水修逸、清水侃、志村三知子、尺八アンサンブル竹の会、常泉寺、湘南新聞販売、白井真紀、白石秀和、白神武男、白沢勲、白浜巳取・カツエ、代田治彦、新川雅子、菅原八重子、杉浦武生、杉本鉄雄・昌子、杉山あき子、杉山孝博、鈴木清一、鈴木秀秋、鈴木ミチヨ、須藤一夫、瀬戸三雄、曾田秀介、曾根郁子、大徳恵美子、高木信子、高崎修、高田修行、高平孝一、高橋宏之、田川洋宣、竹市義弘、竹内一治、武田敏、田代洋子、多田梅子、伊達知史、立石昌子、田中さわこ、田中正男、たまなわ新聞、津口秀治、辻道子、坪田篤子、鶴田文隆、壽崎恭平、遠山康彦、富田佳志、富永ウタ子、戸村隆子、長岡勝美、中川二三夫、長沼増子、中野清、中野泰子、中村末明、中山英男、名取悦子、成沢健之、新原啓、西海博明、西富房江、西村多聞、根岸美恵子、野崎悦子、野沢美重子・ヒロ子、野沢勇造、能登屋良子、萩野麻理、羽島秀光、橋本直樹・鏡子、長谷川公子、畑志津子、PATCHWORKMIKA展おばあちゃんのニット屋さん、花井秀子、花澤武、早川守正、伴勝美、樋上不二子、菱沼保幸、平井敏昭、平川商事、平田キヨ、平野尚子、広田京子、弘田茂穂、府川謙吾、福田稔子、福田寿雄・文子、福田行男、富士茅子、藤田富美子、藤田まさみ、藤森正美、船津孝夫、フミコ・A、古舘タケ子、堀健、前山寿一、増田淳子、舛本直文、増山美枝、間瀬清年、柵木三郎、町田至、松井義亨、松尾行博、松岡圭子、松沢有人、松本和枝、三村育子、宮下重美、宮下美也子、三好明・征子、練功・藤の木、望月節子、森九三八、森昇、安岡千絵里、藪田均、山岡康乃、山岸道子、山口喜一、山崎絹子、山崎行夫、山本弘・栄子・元、山本芳枝、山家政男、譲原昇、夢企画、湯本英二、横須賀市・平作いと

こ会、横田真弓、横浜東邦病院グループ忘年会参加者一同、横山田鶴子、吉井悠美子、吉岡裕子、吉田久美子、若菜忠、脇坂佳治、脇中利宣、渡辺希世子、渡辺孝雄、渡辺当美

- ▼新潟県：A S A新発田、尾崎良順、尾野照雄、金子一光、金子美智子、栢森照夫、黒川博、黒田喜久二、小林町子、小松原耕二、杉本雅英、杉山真沙子、田中稔子、田辺アツ子、玉木清、玉木亘、寺崎啓一、花野安雄、藤井信行
- ▼石川県：久保真喜子、木場清子、斉藤恵子、高見薫
- ▼福井県：A S A福井東、垣内泰治・楊石、中村貞義、吉田皮膚科医院
- ▼山梨県：川上新聞店、倉沢角三、内藤典子、藤原静男、水沢秀雄、山崎喜春、米沢三江、渡辺国夫・教子
- ▼長野県：上田腎臓クリニック、大橋春武・友子、岡本雅男、小坂健介、沢田信子、篠田仁宏、清水栄治、清水もと子、塚田修、堤よう子、宮沢東洋雄、望月正子、師岡恒司、山下美都子
- ▼岐阜県：吾妻輝行、朝日新聞各務原販売、汲田兼利、坂田茂樹、瀬尾幸男、田中真理子、根崎浩郎、野田嘉則、長谷川弘、朴英子、前田晃造、丸山健一、山根長利、横井晋、吉田芳彦
- ▼静岡県：愛申正明、石切山六美、石田敏、上杉孝次、内山さわ子、宇野明彦、浦田典代、尾崎雅子、川合和子、甘露寺、稀代幸雄、金原鏡子、小菅久平、近藤康幸、斉藤和子、佐野勉、佐野ヒフ科クリニック佐野勉、静岡県高等学校野球連盟、篠原利男、芝田正樹・ミチ、菅原大介、多々良幸子、中道紘一、土屋俊久、長崎邦子、中山学、西方さかゑ、西沢修・志乃世、廣瀬壽子、深沢信景、古川清、星野茂、松永伸明・弘子、松平紀子、峰高好子、宮永純子、望月保宏、山本慶子、吉野俊男
- ▼愛知県：愛知県立津島東高校2学年一同、青島鍵一、浅井広子、浅野明美、浅野哲治、荒井久美子、石黒世津子、石田孝司、市川敏男、伊藤健、伊藤智章、稲垣克己・脩世、稲垣道子、稲田陽三、今井時雄、今井泰生、岩月邦隆、植田啓三、内海紀章、西村龍也、太田宏、奥山富子、尾関博、掛川五郎、勝田富貴男、加藤孝平、加藤参郎、加藤紀子、加藤誠亮、金子典子、菊池晴江、木村タエ子、楠元勲、黒谷次郎一、ごきそレディースクリニック、近藤恵子、坂野一博、桜井龍彦、笹淵千紗、佐治満里子、佐藤孝一、佐藤節男・あや子、沢田創司・みよ、柴田紀作、島脇美恵子、清水緑、下山敬、杉原喜美子、杉本宗孝、鈴木京子、須磨千穎、中部女流書道会、知立市昭和3丁目区、照井通夫、長尾浅吉、中嶋静夫、名古屋深雪会、七ツ村繁、南原彩稀子、新美幸子・荻村百合子、野田隆稔、野武二郎、林恭旨、日置妙子、平手勝、藤田直敏、藤丸勝巳、古田明夫・ハツ子、ヘンデル協会、星野十糸絵、堀静子、堀昌義、牧忍、松野剛士、松野辰弥、松本直良、三浦勝人、水谷満子、水野明夫、三田寿美子、皆川龍夫・喜美子、宮川空、宮田修、三輪菊夫・栄子、村上諄子、村田浩資、村田美佐子、本井暁子、盛田百合子、山崎美子、山路良子、山田恵子、山中寛紀、山中康彦、山本明子、横井正彦、吉瀬征輔、渡辺剛、渡辺斉、渡辺強
- ▼三重県：青新一、浅田はみ、井坂世紀子、石野和子、和泉優・弘子、A S A五十鈴川、A S A田丸明野、A S A津販売、大西隆樹、大森芳二、奥野洋子、亀井百合子、栗田紀久子、駒田和子、清水義一、新星電機、高井勝・梓、竹村八重美、富田清志、中世古浩子、中村文世、野呂純一、長谷川吉甫、服部勇、浜口宏子、藤田雅美、前川昌房、真澄寛、松岡雅子、松野文子、間宮利也、水谷皓子、山本純二、吉村信夫
- ▼滋賀県：朝日新聞大津総局、井上ミチコ、金城美代、木村孝次、黒川進、小島和久、小林幸夫、小林順子、サタデーピア、滋賀県ウォーキング協会、鹿野美智子、重本ひさの、田口敏明、竹本コズエ、辻寅建設、途中町ふれあいサロン縁の会、堀良丸、丸山百合子・洋、宮崎正彦、盛一・るり子
- ▼京都府：赤井瑞枝、アサワ医院、石田妙子、市川高士・きみ子、糸井文子、稲田満行、梅原忠雄・禎子、A S A宇治西、大谷光真、北川光夫・恵美子、小出耕資、小坂篤子、小牧貫治、斎藤道子、佐藤一成、信田尚志、庄司敏子、末広幸代、ダイカ、高石照子、高橋順子、高橋徹、滝川祥子、滝川

正、滝本武・恭子、竹延幸穂、田上亮子、塚本安子、名合孝之・嘉津子、中橋幸二郎、中村善治、橋本建二、畑一、福田博幸、藤本功、三間寛次・倭代、村井五郎、メスプコーポレーション、山下育子、山田文諒、吉原征子、渡辺深雪

▼大阪府：赤松益子、赤松善弘、朝本憲、芦田達夫、阿達美智子、荒木美津子、荒木康雄、荒元忠彦、安藤裕紀子、安仲信子、飯島明、生田一好、井口理、育和会、池川清子、池田清、池田美代子、池谷千代子、伊山道子、石井勲、石城戸博子、石黒瑛治、石崎恵子、石田章、石田昭勝、石田美禰子、石橋純子、出水泰男・明子・睦子、泉原ちさと、板井清光、市原美愛、出原弘之、伊藤寿朗、伊東文子、井上威旭、今川沙陽子、今村明美、上須喜久治、上田輝雄、上野たかね、植野敏子、内豊史、宇野耕二、宇野成一、馬野明子、梅田さくら、梅田貞夫、衛藤房子、江端昭子、円尾クリニック、大阪美術商協同組合、大阪府レクリエーション協会、大阪深雪会、大塚伸二、大槻博司、大槻正江、大野俊彦、大橋たづ子、大橋輝雄、岡久子、岡明成二・理恵、岡田福子、岡本健治、岡本起夫、岡本幸男、奥野哲哉・美耶子、尾崎良子、長田浩子、織田皓一、緒谷勇、小野文子、小野美智雄、小原利博、小山敏子、加賀由起子、加川和代、梶谷清、榎本智照、片上清雄、片山哲子、加藤順康、金澤楨、金沢楨、金子喜昭、金田浩、上岡諭、川西真理子、川又みどり、神野秀敏、喜田充郎、木田稔、北川和也、北田利章、北之坊皓司、北村幾恵、北村美佐子、木下越子、木下雅司、木村宏治、木本弘子、近鉄タクシー、日下敦子、久保田健一、熊倉房明、倉林幹彦、栗本透、グレース幼稚園、郡登志子、甲田英行、ごとう耳鼻咽喉科、琴谷敏治、小林たね子、小林タマエ、小峰聖子、小宮健二、混声合唱団「遊」第15回記念演奏会会場募金伊丹アイフォニックホール、金銅幸夫、酒井俊悟、坂口博康、坂本道子、佐々木行雄、佐藤益子、佐藤嘉昭、鮫島俊治、山東利一、塩谷浩之、柴田三男、柴田千代枝、島巖・和美、下村洋子、小司晴巳、人生道場、末吉武男、菅原弘、杉本房枝、住吉高校桜里会、聖愛幼稚園、関口晃、瀬部紀美子、総田ひろ子、大岩根清子、貴多孝之、高田和世、高野和浩、高野健二、高橋絹江、高橋徹、高橋誠、高橋良子、達家恵子、田中勝美、田中進、田中暢子、田中穂積、谷井尚子、谷口成、谷口やす子、谷野潔、田原英明、玉井正光、千種みよ子、千綿繁満、辻外科リハビリテーション病院、津田欣知・和子、堤裕、堤芳子、津野泰子、出口孝友、寺本日出子、天正安治、百目鬼、豊島健二、豊島幸作、冨田幹夫、豊田宏子、長尾昌治・怜子、長尾昌治、中上佳昌、中川英子、仲川真紀、中島正典、中島忠男、中島チエ子、仲田実、中西公、中西敏子、中西浩臣・右・史、中村一郎、中村博一・しづ枝、中屋敷清、梨山春夫、夏目和生、名村正勝、成瀬スミ子、西昭治・綾子、西内スミエ、西川キヨ、西川国彦、西口澄子、西田成廣、西田義幸、西村節子、日本キリスト教会大阪北教会日曜学校、日本システム技術株式会社有志一同、野上笙子、野間明子、萩原永美子、菓正継、橋爪喜久子、林昭男、林郁、林トミ子、林昌子、日置雄毅、日野泉哉、平松清司、福井とみ子、福山章紀、福山昌生、藤井喜美子、藤林保、藤原和子・和弘・萌・陸・明子・三好繁、古沢二喜男、星翔高等学校生徒会、細川齡子、細谷宗八、細谷政子、本田学、前田隆雄、前田龍夫、前野博之助、真砂信三、増尾芳雄、益田旬造、増田武司、増田裕子、松井富子、松岡朝生、松田喜美子、松田守旦、松村明子、松本忠能、松元雅之、水谷泰子、水野三郎、溝畑伸子、道添増美、三村晃、宮崎いつ子、宮原寿江、名田吉子、三輪三郎、向井明子、妻鹿敏弘・みわ子、桃宇中子、森快三、森富雄、森のり子、森田千寿、森野千鶴子、森本恵子、八木黎子、安田吉美、八束浩一、矢野清美、山岸健三、山口厚美・牧子、山口和子、山下岩雄、山下進一、山下寿子、山田栄子、山田美津子、大和梱包、山根巖、山本巖、山本豊、湯川幸子、横関信好、横山久栄、吉崎滉佑、吉崎昌宏、吉崎由香、義積通子、吉田正、吉村孝嗣、米沢康行、和田綾子、和田純一、渡辺朱美、渡辺綱男、渡辺園美

▼兵庫県：秋山敏仁、浅岡芳司、朝日新聞立花、阿部寿子、新井一夫、有田公明、池田和歌子、石井日出夫、

石川澄子、石田光代、井戸トヨミ、井上壽子、岩田フミ子、梅田啓人、恵村順次、大田隆三、大津皓司、大西英子、岡巖・八千代、尾崎久枝、梶岡悟、勝村美和子、上堀順一、川上信男・広子、川端二四雄、河村慶子、北川寛次、北野千草子、木村功也、木村武弘、木村美紀、金礼坤、楠井和子、車野依子、国田一子、小島文子、小谷友子、蔡東青、齐藤公子、齐藤博、阪上秀夫、崎ダイ、桜山京子、笹田滋男、重松貞夫、下多睦子、清水勤、上甲敏子、城玲子、新免篤司、菅村和弘、杉本力、蟬川勝己、外山妙子、高月勝弘、高田フサ子、高橋寛、高福誠・憲子、辰己里美、田中貞子、田中幸雄、田中幸雄、谷政敏、玉田昌子、寺田秀子・宏貴、堂ヶ平興治、富島祥二、長池良枝、長尾絢子、永田敏一、中野多可子、中原征人、中原康弘、西岡浩人・千穂・知奈美、西川一、西村友紀子、野木正彦・栄子、HARVEY PAULA. S.、橋本幸太郎、畑尾雅子、花井彩、浜崎節子、原敬洋、松本正秀、阪神機設工業、曳野亥三夫、樋口量子、平井由美、袋布健二郎、藤岡賢子、藤田和恵、藤田禧子、藤村郁也、藤本洋敏・陽子、藤原肇、仏立寺婦人会、細見佳寿子、堀洋子、堀川法之・登喜子、前池町4.5.6丁目自治会、前田律男、牧野ミツエ、真生園喫茶歩、益田規矩雄・孝子、松浦靖、松下洋子、松本正義、水落吉彦、水谷修子、水本雅子、宮本孝行、基英城、森川昌長、森本教司、八木実、山口恵子、山口守、山田博子、山田博司、山田政次、山本剛、油谷卓雄、吉田軍治、吉田テイ、吉田元恵、米田隆、脇坂正之

- ▼奈良県：あすか夢の楽市、井上美晶、ASA富雄吉村浩尚、大西和子、学園前ローンテニスクラブ、川本俊治、岸村克美、木村正春、河野博道、小林弘、西塔輝男、崇徳寺檀信徒一同、鈴木貴子、孝子義高、中江作郎、中川憲夫、中之瀬文代、西村健、野村進、浜川利郎、林孝子、東山忠男、藤本剛、松居良、松本修一、向平すすむ、村田敏文、木本千津子、山中キシ子、山中ひと美、山中肇、山本安純、吉村徳則
- ▼和歌山県：一瀬建幸、市原孝、医療法人青松会職員ご一同、大岡忠夫、尾形八重子、貝川好延、笠松通、高村真知子、竹田寛、竹中信夫、福井一彦、馬淵義也、森川清昭、吉田賢治・三希子、吉田忠司
- ▼鳥取県：足立仁、中井勲、葉狩忠信、福嶋佑二、増谷玲子、米原幸喜
- ▼島根県：田淵忠彦、福岡典子、藤田三次、山根武・愛子、寄藤信子
- ▼岡山県：明石年正、今井真澄、岡本栄二、金平洋子、神崎栄蔵、酒本登美子、四宮富夫、白井智久、杉本英子、高橋辰雄、谷村昌枝、戸板京子、徳山孝義、中村淳一、原田格二・雄一、日向美恵子、星野謙蔵、前友季子、松本英明、三沢房子、村上宏治、森原誠一、柚木一男、若林和子
- ▼広島県：朝日新聞焼山販売、石井美智子、板谷鉄弥、稲井はつ枝、井上年光、内田信一郎、角田幸信、桑田尚昭、佐藤嘉展、瀬尾博士、田井実、田中健夫、土井長和子、中谷正弘・勢津子、中村好江、中村耕也、藤原紀男、古本和枝、村上益夫、矢野清、山手万知子
- ▼山口県：有久善道・操枝、伊藤芳隆、井本芳宣、潮浩、ASA小野田、ASA厚南販売、大浜晴一、片岡逸、河田信也、河本真龍、木村新聞店、神徳翁甫、護国寺、小林立夫、浄土真宗明林寺、隅田茂生、田中洋治、中村宮治、林通生、原田巖・初称、平岡秀子、広重清子、広田幸名、深本良一、福山道義、藤本裙子、松崎浩司、村田美代子、森永美智子、藪兼義彦、吉松敬祐、吉村礼子、渡辺おでみ
- ▼徳島県：阿部啓三、泉公允、紅露三太郎、田上泰子
- ▼香川県：穴吹勇人、市原晴穂、上杉石松、正派西川流喜之会、高橋正明、寺山和彦・文子
- ▼愛媛県：石井礼一、伊藤英夫、笠原正直、河井典子、桑村勝久、河野チエ子、近藤幸雄、曾我幸弘
- ▼高知県：尾崎善博、嶋崎薫、竹崎勝海
- ▼福岡県：青木恒人・鈴子、朝日カルチャーセンター北九州教室講師・受講生・スタッフ一同、朝日新聞社福岡本部文化グループ、油絵屋大哲、阿部裕子、阿部由利、有田雅子、有馬護宏、安藤正幸、

碓嘉子、池尻直幹、池尻充宏、池園美美子、池田暁彦・加寿子、池野美都子、石橋大海、石原一男、井上敦子、井上静子、井上祐毅・麻衣子・直哉、今村寿和、今本久美子・文徳、入江十三子、岩田光雄、植田朋子、内山健治、梅田勇、浦野さやか、占部千鶴子、大塚保人・明子、大西克己、大西純一、大野クミ子、大野憲一、大野保広・幸子、大林るり子、大淵深、大村公人、緒方タツ子、奥平成男、尾尻義博、尾橋吉郎、小原秀俊、梶務、春日雅樹、風師山早朝登山会、金田浩・敬子、鴨川隆彦、荏田ロータリークラブ、川関富美子、川原義守、川元忠男、川原祥治・幸子、北明政憲・アヤ子、城戸英治、木下京子、木村賢示・勝子、木村幸隆、協栄コンサルタント、清成節子、倉本恵美子、蔵永知彦、栗山太、桑原純、桑原俊治・しのぶ、鯉川典子、小石純也、国際ソロプチミスト北九州一東会長萬納寺忍、小倉北区朝日キャンプリーター会OB会、児玉正子、木庭利治、小宮田鶴子、小宮俊秀、金光教若松教会ニコニコバザー、坂本由美子、佐久間紘一・充子、佐藤保子、茶道裏千家淡交会北九州支部、里村知宣、成重博美・まり子、柴田憲司、下河圭子、周望社交ダンスOB会代表水口哲郎、小住和徳、所長藤井利忠、白石徹、白土八郎、白浜洋子、吹原正子、増留純人、大和ひろみ、高島佳津江、高山利恵子、多川洋子、田川市公民館まつりパソコン教室代表逸木喬、竹添守也、竹中久、田中大二、田中時雄、田中丸玲子、田村龍夫・末子、段野晝雄、辻吉彦、土川勝美、手嶋秀子、取違芳弘、土居麗子、徳永昇・栄子、戸田三七生、富岡春子、中川壮、中島乃婦子、中島與志行、永田泰徳、中野俊雄、中村悦子、中村進一、西生寺護持会、西田影乃、西日本カラオケ連合、日本製鉄八幡製鉄所製鋼OB会、野上妙子、野上智宏、野口正路、野口貢、野ばらの会、橋爪淳二、栢淵義光、恒富誠、姫路秀明、平井信広、ヴィラノーヴァ大谷友和会、福岡吹奏楽連盟、藤尾且一郎、藤田雅之、藤巻義範、藤好三千代、古川和則、古庄三喜男、帆足理、前田稔、真雅鶴会、松岡順之介・彰子、溝部忠増、光安孝夫、宮本邦夫、牟田芳子、村上啓子、村上葉子・靖子、村田純治、村田規子、森山正夫、森脇巖、矢嶋和樹、安沢俊彦、安村茂男、山口俊紀、山下幸子、山下新一郎、山本賢輔、山本史郎、山本哲夫、山家輝美子、八幡西区婦人会連絡協議会、吉永昭人、吉永正人・郁子、米倉昭史、林成寺、渡辺美津子

- ▼佐賀県：磯谷誠一、草野正雄、執行恭子、野田春一、吉竹雅子
- ▼長崎県：須磨律子、永田耕作、後田敏子、山口雄二、わかば会俵町浜野病院理事長浜野裕
- ▼熊本県：青山まり子、荒木鎮雄、佐藤堯、鈴木一臣、樽海友希、寺田幸代、松田斉・鈴子、宮田和子
- ▼大分県：石橋弘行、加藤幸俊、行野富男、財津敬二郎、佐藤カホル、佐藤トシ子、友弘清文、本田和子、美登公希、山崎福男
- ▼宮崎県：赤池義昭、加工2一同、松園博史
- ▼鹿児島県：阿久根亨、荒川順一、木村理、木村龍一郎、蔵屋一枝、迫田久二、末永富美子、田原睦郎、春山雅美、福田利幸、山内正恵、互舎会脇本病院理事長松元寛仁
- ▼沖縄県：松堂トキ子

中期計画2020 ～新しい福祉のカタチをめざして～

はじめに

近年の社会情勢の変化、とくに社会福祉の領域における変化は、かつてないほど急激なものとなっています。格差の広がりによって地域に要援護者が拡大し、それらに対応していくための地域を育み、福祉を支える人を育むことが、時代の要請となっています。

そのような環境の中、社会福祉法人の経営、運営に対しては非常に厳しい批判が社会から向けられています。2017年4月に本格施行された改正社会福祉法はまさに、財務規律やガバナンスの強化、運営の透明性を社会福祉法人に強く求めています。

事業団はこれまで、寄付者のみなさまや福祉の担い手の方々とともに歩み、社会のニーズに応える事業を展開してきました。ガバナンス強化や運営の透明性の向上への取り組みは、事業団の運営を改めて見直し、これからの福祉を担うユニークかつ先進的な法人として確固とした運営基盤づくりをするにあたっては、よい機会であるともいえます。

このため事業団は、16年度半ばに、事業戦略検討チーム（通称：コアチーム）をつくり、中期計画づくりに着手しました。

職員全員が参加する（参加できない人はメールなどで意見をよせる）「みらい会議」を招集して議論し、おおむね2020年までの理念、人、事業、財務、情報についての基本的な方向性をまとめました。

今回は、私たちの社会的使命（ミッションステートメント）を明確にかかげました。これまで事業推進の3本柱としてすえてきた児童、高齢者、障害者という枠組みを超え、次代の福祉に対応させるべく「地域づくりへの貢献」「福祉を支える人づくり」、それを支える「社会的な支援の輪の拡大」を事業団の新たな三つの軸とし、あらゆる事業をその実現に向けて展開する形に、理念や方針を整理いたしました。

この枠組みにより、各分野を横断するような事業が立ち上げやすくなると思います。積立金も事業推進の理念にそって組み替え、その用途を明確にしました。

さらに事業団の大切な資産である職員の能力やモチベーションがいつそう高まるよう、スキルアップの場を増やし、働きやすい職場づくりに力を入れます。ソーシャルメディアも積極的に活用します。

ミッションステートメントを軸に構築された今回の計画は、これからの事業団を次代の福祉を担う組織に進化させるものと確信しています。

1. 事業団の社会的使命

① ミッションステートメント

自らの方向性を定め、常に自らを刷新していく指針とすべく事業団の「ミッションステートメント」を職員で共有します。

朝日新聞というブランドを効果的に活用し、地域と人を育み、支援の輪をつなぐなかで、誰もが自分らしく安心して暮らしていける社会の実現を、多くの団体や支援者と連携しながらめざしていきます。ミッションステートメントには、旧来の児童、障害者、高齢者という枠組

私たちの使命

先駆的に取り組んできた歴史をふまえて未来を見すえ、地域と人を育み、支援の輪をつなぎ、お互いに支え合えだれもが安心して暮らせる社会をつくる

みでは対応しきれない、介護者(ケアラー)の支援や貧困問題への対応など、新しい福祉問題に積極的に対応していきたいとの思いが込められています。

②職員モットー(事業への向き合い方)

次代の福祉を担う組織となっていけるよう、職員モットーをかかげます。新聞メディアの特性「信頼」「発信力」「情報力」をいかし、福祉ニーズへの対応やその解決に、これまで以上にスピーディーに取り組みます。その際には公正・中立な立場を堅持します。立場の異なる意見や新たな発想に謙虚な姿勢で対応し、独りよがりの考え方に陥ることなく、事業をすすめます。

活動モットー

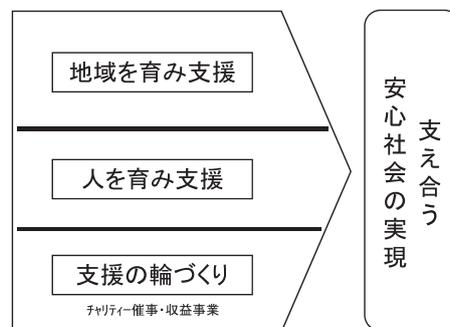
- ・時代に必要とされる仕事をめざす
- ・社会的な視点を意識する
- ・新たな課題の発見に努める
- ・スピード感をもって仕事にあたる
- ・効果、効率を追求する
- ・質の高い仕事をめざす
- ・常に仕事を刷新する
- ・持続可能な形をめざす
- ・当事者を尊重する
- ・支援者、寄付者の視点を尊重する

2. 事業展開

①新「三つの軸」

事業は社会的使命の達成に向けた手段として位置づけます。各事業については、職員モットーでかかげたように、より当事者、そして支援者の思いを大切にし、また、絶えず刷新していくことで、すぐれた事業体としての運営を担保していきます。

2017年度からの新規事業は、この三つの軸の考え方をもとに着手することになります。旧来の児童、高齢者、障害者といった福祉領域のサービスもこうした概念を取り込み、発展的に展開します。



②地域にも積極的に貢献

地域で新たな福祉事業を始められるかどうかについて、勉強会を設けて探っていきます。地域公益事業についても、責任をもって運営にあたっていきます。すでに多彩な事業を展開していますが、より充実させ地域に発信していきます。

3. 拠点と要員

①全国規模で対応

事業団は朝日新聞各本社に事務局をもち、全国規模で事業を展開しています。今後も全国に目配りをする姿勢をもちつつ、東京と、西部、名古屋を含む大阪の「2極」体制を続けていきます。大きな災害などのリスクに備える一方で、人、事業を分散させ、効率的な事業展開ができるようつとめます。また、異動などを含めた職員の交流により、広い視野をもち、グローバルな視点で事業をすすめることができるようなキャリアアップへの道筋も整えます。



②適正な人数配置

全国展開をする一方で、それぞれの事情に応じたきめ細かい事業展開を両立させるため、各事業所に必要な人員を配置していきます。

いまの地域別の事業費ベースでの内訳は、東京が約70パーセント、西部事務所と名古屋事務所を含む西日本事業部で約30パーセントとなっています。当面はこうした割合を念頭におき、それに必要な人員配置をしていきます。それぞれの事業所は、本部事務所と連携しつつ、事業所レベルでの財務的に安定した運営をめざしていきます。

③職員のスキルアップ

質の高い福祉事業の展開には、職員の質の向上が不可欠です。福祉のスペシャリストを招いての勉強会といった職員研修を充実させるほか、常に新しい視点で取り組む福祉活動を客観的に評価検討し、イノベートしていきます。

多様な働き方ができるよう、育児や介護時の就業を支えるフレックスタイム制の導入などについて今後検討し、環境整備に取り組めます。

4. 財務戦略・ガバナンス強化

①「次世代型積立金」に組み替え

近年の福祉は、貧困の問題に象徴されるように、問題が複雑化しています。児童、障害者、高齢者という旧来の枠組みだけでは対応しづらい状況が生まれつつあります。

これに対応するために積立金を「児童支援」「地域支援」「人材支援」「東日本震災復興支援」の4つに分けて設定します。さらに、それぞれに該当する事業を仕分けします。今後は各積立金から各事業に、計画的かつ適切にお金を使っていきます。児童、高齢者、障害者という会計的な枠組みに収まらない事業に柔軟に対応していきます。

積立金名称	積立金の趣旨	主な充当先
1. 児童福祉振興基金 (含む山岡基金) 7億2千万円	社会的支援を必要とするすべての子どもたちに夢と希望を与えるための基金。	・進学応援金 ・子どもの貧困助成
2. 地域福祉振興基金 4億4千万円	誰もが、年を重ねても安心して暮らすことのできる地域づくりに寄与する基金	・認知症プロジェクト ・認知症カフェ開設応援助成
3. 福祉人材育成啓発交流基金 2億7千5百万円	次代の福祉を担う人材を育み、その交流と福祉の啓発に寄与する基金	・手話スピーチコンテスト ・朝日夏季保育大学 ・ゆうゆうビジット
4. 東日本大震災地域支援基金 3億793万円	東日本大震災で被災した地域の復興に寄与する基金	・朝日のあたる家 ・被災地訪問プログラム

②新しい収入源の確保に注力

現在の年間事業規模は4億円程度で推移しています。金額的には妥当なスケールであると思われる。しかしながら、寄付金収入やチャリティー事業の収入が今後落ち込むおそれがあり、安定的な資金的な裏づけのない事業団にとっては、収益源をまかなう収益事業をあらたに開拓する必要性が出てきます。

ネット空間を使った新たな寄付受け入れ手法の導入や、新しい視点でのチャリティー事業づくりなどに、全力をあげて取り組んでいきます。

③財務情報の透明化と管理の徹底

社会福祉法人に対するガバナンス徹底などの要請が強まっています。事業の収支については、各事業のフローバランスを注視、全体的収入に応じた支出規模となるように、これまで以上に厳密な管理

をしていきます。事業の妥当性、会計の透明性を確保するため、一定の外部組織等による監査も導入します。

④柔軟なマネジメント

たとえ、実施することを年度当初に決めた事業であっても、ガバナンスの徹底、リスク低減の努力などがなされていなければ、直前であっても実施を見送ります。

事業を進める際には上司と部下が緊密に連絡、意見交換を交わしつつ、おおいに前向きな議論をしながら、最新のニーズにそった、意義のある事業を手がけていきます。

また朝日のあたる家のように、他団体を通じて支援している施設の老朽化に対応するメンテナンス費用などについても適切な金額の積み立てを考えておく必要があります。つねに数年先の将来像を描きながら、運営してまいります。

5. 広報展開

SNS（ソーシャルネットワーク）を積極的に活用

SNSの社会的な影響力は高まる一方です。事業団は法人独自のホームページをもち、その更新につとめ、催しなどの広報をしています。SNSの影響力が大きくなるなか、それらへの適応が急務となりつつあります。本格的な導入に向けてしっかりとした態勢をつくり、催しのいくつかでInstagram、ツイッター、フェイスブックなどを活用した実験的な取り組みをはじめます。

また、ウェブマーケティング（グーグルアドワーズを使った広告など）を一部の事業で活用し始めていますが、これらの活用も積極的に模索していきます。

おわりに

今、社会福祉法人の制度改革がすすめられています。この中期計画も、この法改正に対応する内容になっています。この度の改革の趣旨は、社会福祉法人の存在意義を問うものであり、私たちはこの要請にしっかりと応えていくべきと考えます。この計画は、新しく求められる社会福祉法人としての社会的役割、そして事業団としてのこれからの社会的使命を方向づける、重要な役割を果たすものと考えています。

今回、おおむね2020年までの方向性ということでまとめましたが、最新の福祉ニーズに応えるために修正が必要であれば、期中であっても速やかに変更していきます。常に時代に対応した事業を展開していく姿勢を貫きます。職員各自の、またご支援ご協力いただいている方々の思いが、本計画をもとに統合され、新しい福祉のカタチをつくっていけるよう、努力してまいります。

朝日福祉ガイド DVD・本のご案内

朝日福祉ガイドDVD

※価格は税別。別途梱包送料がかかります。7巻まで5200円、8巻以上は8100円。

自閉症の人が求める支援 ～よくわかる自立のためのアイデア～ 全3巻セット9,900円、各巻4,000円	自閉症の人の支援の基本となる「構造化」を、その基礎から学校や職場、家庭での生かし方にいたるまで具体的に説明しています。第1巻「基本編 基礎から分かる構造化(60分)」・第2巻「実技編 構造化と再構造化のしかた(85分)」・第3巻「実践編 自立のための構造化(112分)」
自閉症の人が見ている世界 ～自閉症の人を正しく理解する～ 全3巻セット9,900円、各巻4,000円	「視覚的に考える」「独特の注意の向け方をする」など自閉症の人が物事をどのように見て、感じて、考えるのかを支援する視点から解説します。第1巻「自閉症の人の学習スタイル(63分)」・第2巻「自閉症の人が好むこと(39分+全3巻のダイジェスト21分)」・第3巻「13人のエピソード(85分)」
自閉症の子どもの評価 生活スキル編 全4巻セット16,000円、各巻4,500円	自閉症の人を支援する鍵となる「評価(アセスメント)」について、その意味や方法、ポイントを学んだ上で、自立につなげるための工夫を紹介します。第1巻「評価のしかた(65分)」・第2巻「評価のポイント(48分)」・第3巻「評価と課題設定(86分)」・第4巻「自立のための評価(71分)」
自閉症の子どもの自立課題 全3巻セット12,600円、各巻4,500円	「自分ができる」という感覚を養い、いろいろなことに取り組む意欲を育て、将来の自立した活動につながる「自立課題」を詳しく紹介しています。第1巻「自立課題の選び方(64分)」・第2巻「自立課題の作り方(59分)」・第3巻「自立課題のできあがり(49分)」
TEACCHプログラムシリーズ ～米国ノースカロライナ州にみる自閉症治療教育～ 各巻2,800円	米国・ノースカロライナ州でロケを行い、TEACCHプログラムの実践を撮影しました。
自閉症児の明日のために ～TEACCHのねらいと考え方	プログラムの全体像をセラピストの立場から紹介、自閉症の人たちを援助する上で何が必要かを示唆(49分)
親のためのTEACCHプログラム	親が実践できるように、家庭での援助の実際を具体的に分かりやすく紹介(67分)
教師のためのTEACCHプログラム	教室やスケジュールの設定、親との連携など、教師や指導員の参考に(69分)
青年期・成人期のTEACCHプログラム	学校卒業後の就職・居住・余暇など青年期・成人期向けの援助法を紹介(55分)

◆お申し込み・お問い合わせ◆

ご希望の方は電話かファクスで下記までお申し込みください。

(タイトル名、数量、お名前、電話番号を明記してください)

ホームページ (<http://www.asahi-welfare.or.jp/>) からもお申し込みができます。

朝日新聞厚生文化事業団 朝日福祉ガイドブック・DVD係
 〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
 tel: 03-5540-7446 fax: 03-5565-1643

朝日福祉ガイドブック

※価格はいずれも税別。別途梱包送料がかかります。

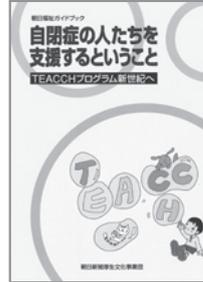
1冊180円、2～3冊250円、4～5冊310円（6冊以上はお問い合わせください）



四行からはじめる遺言作成
Q & A

1,200円

遺言を書くときに注意すべき点や遺言の種類、執行者の選び方、弁護士に相談するときのコツなどを、Q & A方式でやさしく解説します。



自閉症の人たちを支援する
ということ

800円

自閉症の人たちの特性を分かりやすく解説しながら、その支援のために米国で開発された「TEACCHプログラム」の内容を紹介しています。



生き方、逝き方ガイドブック

1,200円

本人らしい穏やかな最期を迎えるには、どのような方法があるのでしょうか。在宅医療をすすめる新田國夫医師の経験を踏まえて整理しました。



自閉症のひとたちへの援助
システム

500円

TEACCHプログラムの実践事例を豊富な写真とイラストで紹介しながら、プログラムを日本でいかに生かすかを提案します。



なるほど高次脳機能障害

1,200円

高次脳機能障害を、その障害の理解に始まり、発症から診断、リハビリ、社会参加までを豊富な事例をもとに分かりやすく解説した入門書です。



100%あたらくん

600円

自閉症のわが子をいつくしみ、支える日々を母親が描いた4コマ漫画。幼少期から思春期まで、自閉症の子どもとその家族の日常が理解できます。



みんなのうつ

1,000円

「喪失体験」をキーワードに、うつ病を理解するための基礎知識、援助の方法、治療法、生活の中での対処法を紹介しています。



くるまいす—第3改訂版

300円

車いすの種類や構造、介助の基本的な方法やポイントを分かりやすく解説、公共交通機関の利用についても触れています。



認知症とともに

1,000円

認知症の人やその家族が前向きな生活を送るための、診断から治療、ケア、介護サービス、施設への入所や看取りまでを解説しています。



新・川崎病がわかる本
改訂増補版

500円

乳幼児を中心に発病する原因不明の「川崎病」について症状や特色、療養上の注意、相談窓口などの情報を加えて解説。

朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ

● 社会福祉 常に時代の先を見すえて

朝日新聞厚生文化事業団の設立のきっかけは、1923（大正12）年9月1日の関東大震災の被災者救援活動です。朝日新聞社は全国から寄せられた義援金や食糧、生活用品を被災者に配り、震災の翌年末には「歳末同情週間」（現在の「歳末助け合い」）を主催し、紙面キャンペーンや街頭募金を始め、美術家や作家などの協力を得た「色紙・短冊即売会」（現在の「朝日チャリティー美術展」）を催しました。これらの寄金を食糧や衣料品にかえて生活に困る人々に贈りました。

その後、世界的な経済恐慌で生活困窮者が増え、社会問題が続発したため、28年1月に「社団法人朝日新聞社会事業団」を大阪朝日新聞社に創設しました。

「歳末同情週間」の寄金で生活困窮者に慰問袋や無料診察券、常備白米券を配り、困窮者への「出世資金」の貸し出しや農繁期託児所の開設、水上生活者のための無料診療船巡航などを実施しました。学校に弁当を持参できない子どもたちの「欠食児童給食運動」キャンペーンは、現在の学校給食のきっかけとなりました。大阪に公衆衛生訪問婦協会を設立し、保健・育児など多岐にわたる活動は日本の保健師制度の基礎を築きました。

第二次大戦後は、戦災者や引き揚げ者への家庭常備薬や医療品の配布、傷病兵慰問などの援護事業から始まりました。廃墟の中での明るい話題は、49年9月にインドのネル首相から贈られた象「インディラ」の「移動動物園」でした。半年間で東日本18都市を回り、子どもたちの笑顔を取り戻しました。

52年に社会福祉事業法が制定され、朝日新聞社の東京・大阪・西部各本社にそれぞれ独立の社会福祉法人を設け、「朝日新聞厚生文化事業団」と改称しました。63年には大阪事業団の名古屋支部が独立し、全国展開事業とともに地域福祉事業の推進に着手しました。

戦後の復興とともに本格的な社会福祉事業への取り組みが始まり、児童福祉法施行5周年を記念して大阪に「アサヒ生駒山キャンプセンター」を開設、児童養護施設の中学生修学旅行や福祉施設で暮らす高齢者の温泉旅行も始まりました。54年8月に第1回の「朝日夏季保育大学」が開かれ、56年2月から始まった「この子たちの親を探そう」運動は、戦争で生き別れた親子146組の対面を実現しました。ハンセン病の正しい理解と患者支援のために「大阪ハンセン病協働会」を設立し、「アサヒベビー相談室」を大阪・



同情週間の配給の様子を視察する安井英二・大阪府知事（左から3人目）と上野精一・本社長（その右）＝大阪市・今宮第三小学校、1935年



三越日本橋本店の屋上で、米国のディズニーランドをパノラマや模型で日本に初公開＝東京都中央区、1957年



新潟地震の被災地で診療にあたる朝日クリニックカー文学座号＝新潟市、1964年

名古屋のデパートで開設したほか、大学医学部による全国の無医地区診療など、医療と公衆衛生事業にも力を注ぎました。59年9月の伊勢湾台風、64年6月の新潟地震では被災地に朝日診療車が出動して被災者救護にあたり、全国からの救援物資を配布しました。

高度経済成長と共に事業を拡大しました。三重県多徳島の「アサヒ志摩キャンプセンター」、愛知県梶島の「アサヒキャンプセンター」、千葉県保田海岸の「朝日臨海福祉センター」、大分県九重町の「朝日高原福祉センター」を開設し、福祉施設の子どもや障害のある子どもが参加するキャンプ事業が始まりました。また、激増する交通遺児家庭への支援活動を始め、視覚障害のある学生のための奨学金制度も創設しました。

障害のある人や難病患者への支援も本格化し、電動タイプライター・電動車いすの贈呈や普及キャンペーンを展開。福祉のまちづくりを進める「車いす市民交流集会」や、福祉先進国を訪ねる「車いすヨーロッパの旅」も始まりました。「ヨーロッパの旅」は障害のある人の海外旅行の先駆けとして注目され、これらの集会や旅の参加者の多くが、障害のある人の自立生活運動の中心となりました。また、「朝日ボランティア奨励金」「朝日福祉設備助成金」(86年に「朝日福祉助成金」に統合)を相次いで創設、各地でボランティア講座を開くなど、草の根福祉活動の支援を進め、認知症など介護の必要な高齢者の問題に対応する「アサヒ老人家相談室」も開設しました。

81年の国際障害者年には「障害者の自立を考えるシンポジウム」を全国で開催し、ノーマライゼーションの理念を基に、コミュニケーション・プリンターや手書き電話、福祉電話装置「ふれあい」などの贈呈運動を展開しました。精神障害者の医療や福祉の先進国である欧米5カ国に視察団を派遣し、日中平和友好条約締結10周年を記念した「日本・中国車いす市民友好相互交流」も実施しました。

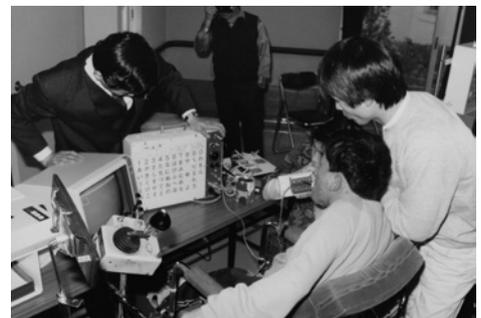
また、自閉症の支援システム「TEACCH(ティーチ)プログラム」に着目、米国ノースカロライナ大学から講師を招いて研修会を開き、ガイドブックやビデオを制作・頒布するなど、本格的な普及活動を開始。2002年からはその実践者千人余りが集う「自閉症カンファレンスNIPPON」を開催しています。同時に学習障害児(LD)の理解を進める公開相談会や、深刻な社会問題となった青少年の「ひきこもり」問題を考えるシンポジウムも各地で開きました。手話の普及とボランティア活動・福祉教育の推進をはかる「全国高校生(大学生)の手話のスピーチコンテスト」は84年にスタートしました。91年からの「アジア障害者の10年」にあたり、全国の障害者施設・団体と協力して、タイ・ベトナム・カンボジア・フィリピンなどに車いすを贈る運動を展開、障害のある現地の人々が車いすを制作・修理する工場を開設しました。



福祉施設の児童の招待から始まった「アサヒキャンプ」は、終戦後から終了となった2003年度まで、事業の大きな柱の一つだった=千葉県鋸南町、1979年



手動式車いすの使用が難しい身体障害者を対象に「電動車いすを贈る運動」を推進。1974年からの10年間で1000台余を贈った=札幌市、1981年



重度障害者のために開発された、わずかな操作で意思表示をすることができる「コミュニケーション・プリンター」の普及・贈呈に努めた=1983年

一方、83年のアフリカ飢餓救援キャンペーンをはじめ、国内外で起こった災害に対応して、救援募金を呼びかけてきました。91年には「チェルノブイリに光を」キャンペーンを開始、広島・長崎の赤十字病院で被災地の子どもを診療し、現地の医師が被曝（ひばく）治療の研修を受けました。95年1月の阪神淡路大震災では、救援拠点として「朝日ボランティア基地」を開設し、高齢者・障害のある人への緊急援助や仮設住宅世帯、アジアからの留学生、被災した子どもたちへの支援など多岐にわたって活動。2004年の新潟県中越地震では、被災者の心のケアに焦点をあてた事業を展開しました。この実績は11年3月の東日本大震災でも生かされ、両親を失った子どもに一時金を贈る「こども応援金」や、岩手県陸前高田市の地域交流施設「朝日のあたる家」の開設など、独自の救援事業に取り組んでいます。



阪神淡路大震災発生直後に設けられた事業団の救援拠点「朝日ボランティア基地」＝兵庫県西宮市、1995年

東京・大阪・西部・名古屋で独立して活動してきた各事業団は01年4月1日に合併して、「社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団」となり、18年には創立90周年を迎えました。新聞社の福祉事業として、常に社会の変化やニーズを的確にとらえ、「お互いに支え合えだれもが安心して暮らせる社会」の実現をめざした取り組みを続けています。

2019年度 事業活動計算書より抜粋

(2019年4月1日～2020年3月31日)

単位：円

サービス活動収益	441,746,469	サービス活動費用	441,254,811
事業収益	83,604,972	事業費用	179,391,844
老人福祉事業	637,209	老人福祉事業	46,676,529
児童福祉事業	2,737,653	児童福祉事業	58,557,387
障害者福祉サービス等事業	10,731,633	障害者福祉サービス等事業	19,568,305
医療と公衆衛生	2,929,500	医療と公衆衛生	218,424
朝日福祉ガイド(DVD他)	3,266,477	福祉啓発推進	1,309,327
チャリティー事業	63,302,500	朝日福祉ガイド(DVD他)	1,798,393
		チャリティー事業	51,263,479
経常経費寄附金収益	358,124,497		
その他の収益	17,000		
		人件費	188,338,084
		事務費	71,926,389
		減価償却費	1,594,862
		徴収不能費	3,632
サービス活動外収益	483,309	サービス活動外費用	0
受取利息配当金収益	483,309		
		経常増減差額	974,967
合計	442,229,778	合計	442,229,778

詳細は、事業団のホームページをご覧ください。

理事・監事・評議員名簿

2020年3月31日現在

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団／理事・監事・評議員
(理事6人 監事2人 評議員7人)

理事長	飯田 真也	朝日新聞社相談役
業務執行理事	鈴木 健	朝日新聞厚生文化事業団理事
理事	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長 元環境事務次官
同	早瀬 昇	社会福祉法人大阪ボランティア協会理事長
同	越村佳代子	元社会福祉法人こどもの国協会常勤理事・副園長
同	服部万里子	服部メディカル研究所所長
監事	亀岡 保夫	公認会計士 大光監査法人理事長
同	狩野 信夫	社会福祉法人けやき福祉会常務理事(業務執行理事)
評議員	大谷 泰夫	社会福祉法人日本保育協会理事長
同	杉村 全陽	社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団事務局長
同	石川 到覚	大正大学名誉教授
同	大塚 晃	一般社団法人日本発達障害ネットワーク副理事長
同	小林 秀樹	社会福祉法人東京都社会福祉協議会事務局長
同	高槻 忠尚	朝日新聞社CSR 担当補佐
同	水野 雅生	ミズノプリテック株式会社社長

ご寄付の方法

● 郵便振替

口座番号「00130・1・9166」(加入者名=朝日新聞厚生文化事業団)で受け付けております。通信欄に「寄付」とお書きください。またお名前の朝日新聞紙上への掲載が不要な場合は「匿名」、領収書不要の場合は「領収書不要」と明記した上でご送金ください。

当事業団専用の「寄付専用」郵便振替用紙をお使いいただければ、払込料金が不要となります。お手元がない場合は事業団にご請求ください。

● 銀行振り込み・クレジットカード

事業団ホームページからご寄付の手続きができます。

● 現金受付

朝日新聞本社内の厚生文化事業団窓口(平日午前10時～午後5時30分)

朝日新聞の各総局などでお受けします。

税制上の優遇措置について

事業団へのご寄付は次のような寄付金控除を受けることができます。

▽個人所得税

所得控除と税額控除のうち、いずれか有利な方をお選びいただけます。この優遇を受ける場合、確定申告を行う必要があります。

〈所得控除〉 寄付金の合計額※ - 2000円 = 所得控除額
※総所得金額の40%に相当する額が上限

〈税額控除〉 (寄付金の合計額※ - 2000円) × 40% = 税額控除額※※
※総所得金額の40%に相当する額が上限
※※所得税額の25%が上限

▽個人住民税

東京都にお住まいの方は、個人住民税から控除の適用を受けることができます。

(寄付金額※ - 2000円) × 4% = 税額控除額
※総所得金額等の30%が上限

▽法人の場合

当事業団に対するご寄付は、その寄付金の合計金額と寄付金の損金算入限度額のいずれか少ない金額が損金に算入されます。詳細はお近くの税務署、税理士にご確認ください。

▽相続税についての優遇措置

相続で取得した財産の一部または全部をご寄付された場合、一定の要件を満たせばご寄付された財産について相続税は課税されません。また、遺贈については信託銀行と提携しご紹介も行っています。

● 朝日新聞厚生文化事業団古本募金

本、DVD(本はISBN書籍コードがあるものが対象)、ブランド品、貴金属等をお送りいただき、査定金額の全額を事業団に寄付できる仕組みです。集荷・査定換金・募金送金は「きしゃぼん」(運営:嵯峨野株式会社)が実施。集荷申し込み、取扱品に関する問い合わせはきしゃぼん(電話0120-29-7000=9:00~18:00、ホームページkishapon.com/asahi-welfare/)。

お問い合わせ

■ 本部 (東京)

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
TEL 03-5540-7446 FAX 03-5565-1643

■ 大阪事務所

〒530-8211 大阪市北区中之島2-3-18
TEL 06-6201-8008 FAX 06-6231-3004

■ 西部事務所

〒812-8511 福岡市博多区博多駅前2-1-1
TEL 092-477-6930 FAX 092-477-6931

■ 名古屋事務所

〒460-8488 名古屋市中区栄1-3-3
TEL 052-221-0307 FAX 052-221-5453

朝日新聞厚生文化事業団 職員名簿 (2020年3月31日現在)

■ 本部 (東京)	■ 大阪事務所	■ 西部事務所
事務局長 是 永 一 好	西日本事業部長兼大阪事務所長	事務所長 上 原 啓
事業部長 野 崎 貴 士	山 本 雅 彦	専門委員 (西部在勤)
管理担当部長 大 羽 淳 一	小 倉 玲 子	福 田 年 之
広報担当部長 河 田 有 子	藤 田 祐 子	
落 合 すが子	古 市 真 弓	
勝 見 文 子	森 田 英 恵	
北 村 美 樹		
古 屋 厚 子		
富 岡 信 幸		
中 村 宣 人		
松 岡 百 合		
宮 前 賢		
		■ 名古屋事務所
		事務所長 岡 本 真 幸



ホームページ・facebook で福祉情報を発信しています

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>
<https://www.facebook.com/asahiwelfare/>